

— ダイキン「第14回 現代人の空気感調査」 —

**「インフルエンザに関する危機意識」
報告書**

2009年10月

ダイキン工業株式会社

目次

■調査企画	1
■調査結果の内容	3
1. この1年間にインフルエンザに感染したか	4
◆この1年間に「インフルエンザにかかった」人は約5% (4.8%)	
◆感染する時期は“12~2月” (62.5%)が多い	
2. インフルエンザに関してどの程度不安を感じているか	6
◆“不安を感じている” (75.0%)が大半を占めるが、「さほど不安を感じていない」 (22.2%)油断している人も	
◆“不安を感じている”理由は、「子供・孫がいるから」 (45件)、「いつどこで感染するかわからないから」 (42件)、「亡くなっている人がいるから」 (37件)がトップ3	
◆“不安を感じていない”人は、「手洗いやうがいなど、予防を心がけているから」 (18件)という“慎重派”と、「重症化や死に至る可能性は低いから」「自分がかからないと思うから」 (それぞれ13件)という“楽観派”に分かれる	
3. インフルエンザ対策を十分に行っていると思うか	9
◆【外出時】は“考えて行動していない” (58.4%)が約6割を占める	
-----上の年代ほど対策をとっている人が多く、《20代》《30代》は不安とは裏腹に“考えて行動していない”人が多い	
◆【在宅時】は“考えて行動している”“考えて行動していない” (それぞれ50.0%)が半々	
-----《女性》《60代》は自宅でも対策を考えている人が多い	
4. 家でのインフルエンザ予防対策	11
◆「帰宅時に手や顔を洗う」 (83.8%)が最も多い。以下、「栄養を十分に摂る」 (79.0%)、「換気に注意する」 (69.0%)、「帰宅時にうがいをする」 (68.8%)、「睡眠不足にならないよう注意する」 (65.0%)など	
◆できていないと思う対策は、「手などをアルコールで消毒する」 (46.4%)、「外出時にはマスクをかける」 (45.0%)が上位	
5. 外出先でのインフルエンザ予防対策	15
◆「昼食など栄養を十分に摂る」 (57.4%)が最も多い。次いで「のどが乾燥しないよう注意する」 (42.6%)、「残業など体力を消耗しないようにする」 (38.2%)、「室内に入る前に手や顔を洗う」 (31.0%)など	
◆できていないと思う対策は、「アルコールで消毒する」 (42.0%)がトップ。以下、「室内に入る前にうがいをする」 (33.2%)、「室内に入る前に手や顔を洗う」 (32.8%)、「室内でもマスクを着用する」 (32.2%)など	
6. 最近1ヵ月間にインフルエンザ対策に使った金額	18
◆いくらかでもお金を使った人は半数強 (56.0%)で、「0~1,000円未満」 (33.2%)が最も多い。平均は「1,553円」	
◆インフルエンザ対策に購入したものは、「マスク」 (73.6%)が断然多い。以下、「薬用石けん」 (35.0%)、「うがい薬」 (28.9%)、「のど飴・暖かい飲み物」 (28.6%)など	

7. マスクはどこでつけて、どこではずすことが多いか..... 20

- ◆マスクをつけるのは、「家の玄関を出る時」(17.8%)、「電車など交通機関に乗る時」(13.4%)、「外出先の建物に入る時」(6.4%)など、外気に触れる瞬間、人の多い場所に行く時が多い
- ◆マスクを外すのは、「家の中に入る時」(21.4%)、次いで「家の玄関先で」(15.4%)が多く、家の中でも着用する人は少ない

8. インフルエンザウイルスの活動を抑えるために適切な室内環境..... 24

- ◆適切だと思う温度は「24～26℃未満」(33.0%)が最も多い。そのほかにも「20～22℃未満」(24.2%)、「26～28℃未満」(15.8%)など 20℃台が多く、平均は「23.7℃」
- ◆適切だと思う湿度は「60～70%未満」(35.4%)が最も多く、「50～60%未満」(30.2%)が続く。平均は「53.7%」
- ◆正解(温度 20℃以上、湿度 40%以上)した人は8割強(83.6%)

9. インフルエンザに感染する危険度が高いと思う場所..... 26

- 「非常に危険度が高いと思う」のは、「交通機関や空港・駅などで周囲の人から」(55.8%)、「病院や医院、高齢者福祉施設などで周囲の人から」(53.6%)。一方、「家の中で家族などから」を危険度が“高いと思う(非常に+やや)”人は3割程度(34.2%)
- 《女性》は「家の中で家族などから」(42.4%)も警戒する人が多い

10. インフルエンザに対する予防処置が最も必要なのは、どのタイミングだと思うか..... 28

- 「帰宅時(家に入る時・玄関先)」(25.4%)、「帰宅した直後(家に入ってから)」(25.2%)が並び、次いで「職場や外出先」(22.6%)、「出勤や外出の途中」(20.6%)が続く

11. インフルエンザの流行時でも、自宅の中の空気は安全だと思うか..... 29

- “安全だと思う”(67.2%)が3分の2を占め、家庭内で感染するリスクを感じている人は比較的少ない

12. 「空気清浄機」を使用しているか..... 30

- ◆「使っている」人は3割(29.2%)
- ◆購入した時期は「3～4年前」(30.8%)、「5～9年前」(29.5%)が多い
- ◆使用している空気清浄機が持つ機能は「脱臭機能(ニオイの除去)」(69.2%)がトップ。「インフルエンザ等のウイルスの除菌・除去機能」は約4割(37.7%)
- ◆一番の購入理由は「花粉の除去」(22.6%)、「ハウスダストやダニの除去」(17.1%)などアレルギー対策が多い。次いで「タバコの煙や臭いの除去」(16.4%)、「部屋の臭いの除去」(10.3%)などのニオイ対策が続く

13. 「空気清浄機」に期待する機能や効果..... 34

- 「インフルエンザ等のウイルスの除菌」(73.6%)、「細菌やカビの除去」(72.2%)が上位を占め、細菌・ウイルス除去への関心が高まっている。以下、「ハウスダストやダニの除去」(67.2%)、「花粉の除去」(52.8%)、「部屋の臭いの除去」(49.6%)など
- 若い世代ではニオイ対策を重視する傾向が強い

調査企画

1. 調査目的

ダイキン工業では、“空気”にこだわり、また空調の技術を進化させてきた空調のトップメーカーとして、日頃あまり意識されてこなかった“空気”について、より多くの方々に関心を持っていただきたいと考え、2002年から“空気”に関する現代人の意識を探るための「現代人の空気感調査」を実施してきました。

14回目となる今回の調査は、いま急速に拡大を続けている「新型インフルエンザ」を含む「インフルエンザ」を取り上げ、現代人の危機意識と行っている対策について実態調査を行いました。後半ではウイルスに感染しそうな「危険な空気（場所）」、ここなら大丈夫という「安全な空気（場所）」に対する意識を明らかにしていきます。

2. 調査対象

20～60代の一般成人男女

3. 調査方法

インターネット調査

4. 調査期間

2009年9月2日（水）日～9月4日（金）

5. 標本構成

F1. 性別

サンプル数	男性	女性
500	250	250
100.0	50.0	50.0

F2. 年代

サンプル数	20代	30代	40代	50代	60代	平均（歳）
500	100	100	100	100	100	45.0
100.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	

F3. 職業

サンプル数	会社員・公務員	商工サービス 自営	専門職	自由業	パート・アルバイト	学生	専業主婦	無職・その他
500	214	27	13	9	56	15	109	57
100.0	42.8	5.4	2.6	1.8	11.2	3.0	21.8	11.4

F4. 住居形態

サンプル数	持ち家・一戸建て	持ち家・集合住宅	社宅・寮	借家・一戸建て	借家・集合住宅
500	256	86	20	11	127
100.0	51.2	17.2	4.0	2.2	25.4

F5. 家族構成

サンプル数	夫婦	夫婦＋子供	夫婦＋子供＋祖父母(孫)	単身(1人暮らし)	その他
500	114	187	32	87	80
100.0	22.8	37.4	6.4	17.4	16.0

F6. 同居している家族(複数回答)

サンプル数	乳幼児	小学生	中学生	高校生	70才以上の方	1人もいない
500	59	54	30	32	68	308
100.0	11.8	10.8	6.0	6.4	13.6	61.6

F8. 居住地(都道府県名)

サンプル数	北海道	東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州
500	23	19	226	14	61	10	93	20	13	21
100.0	4.6	3.8	45.2	2.8	12.2	2.0	18.6	4.0	2.6	4.2

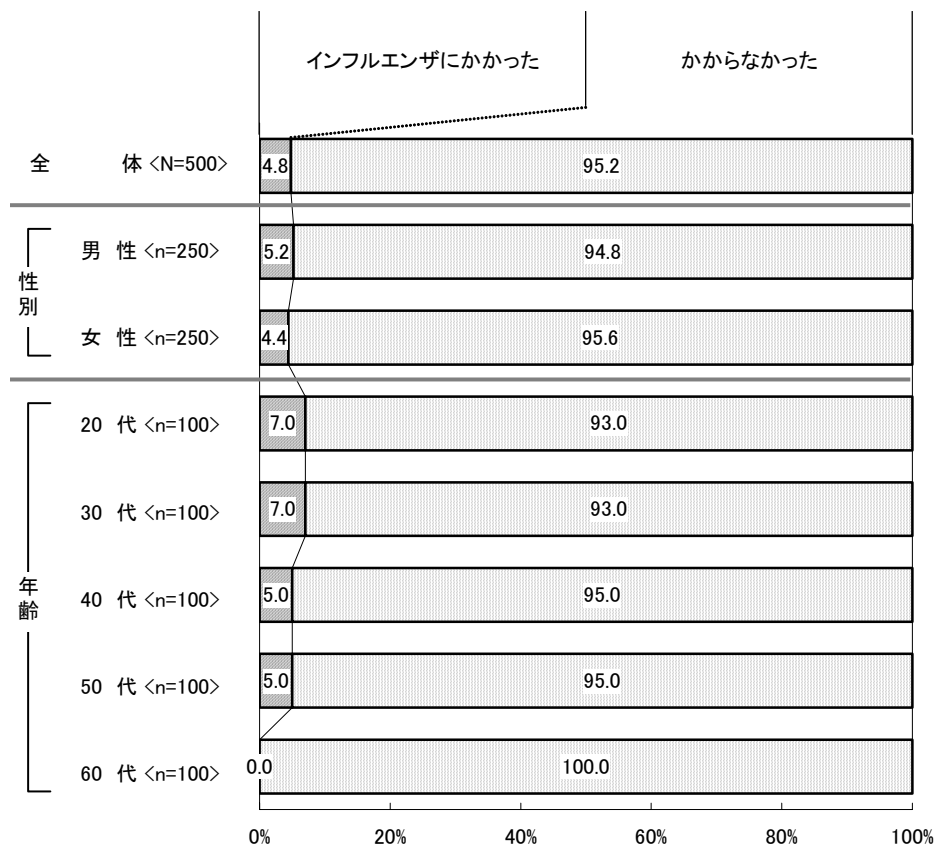
調査結果の内容

1. この1年間にインフルエンザに感染したか

◆この1年間に「インフルエンザにかかった」人は約5% (4.8%)

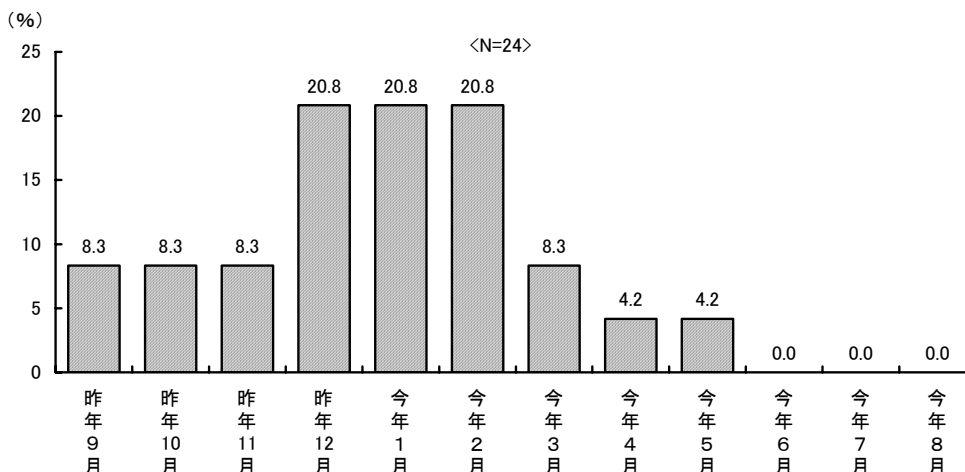
◆感染する時期は“12~2月”(62.5%)が多い

図 1. この1年間にインフルエンザに感染したか



過去1年間 (2008年の9月から2009年の8月にかけて) の感染の有無をたずねたところ、約5% (4.8%) が「インフルエンザにかかった」と答えています。

図 2. インフルエンザに感染した時期（複数回答）



感染した時期をみると、「昨年 12 月」「今年 1 月」「今年 2 月」（それぞれ 20.8%）で 6 割強（62.5%）を占め、冬季に感染した人が多くなっています。一方、新型が拡大を始めた春以降の感染者は 1 割弱（8.4%）となっています。

表 1. インフルエンザに感染した場所・相手（件）

場所	相手	件数
自宅で	子どもから	4
	夫から	2
	家族全員から	1
職場で	同僚から	2
	生徒から	2
	上司から	1
通勤中	不特定多数	4
学校で	友達から	1
	子どもから	1
	他の患者から	1
外出先で	不特定多数	3
不明	不特定多数	2

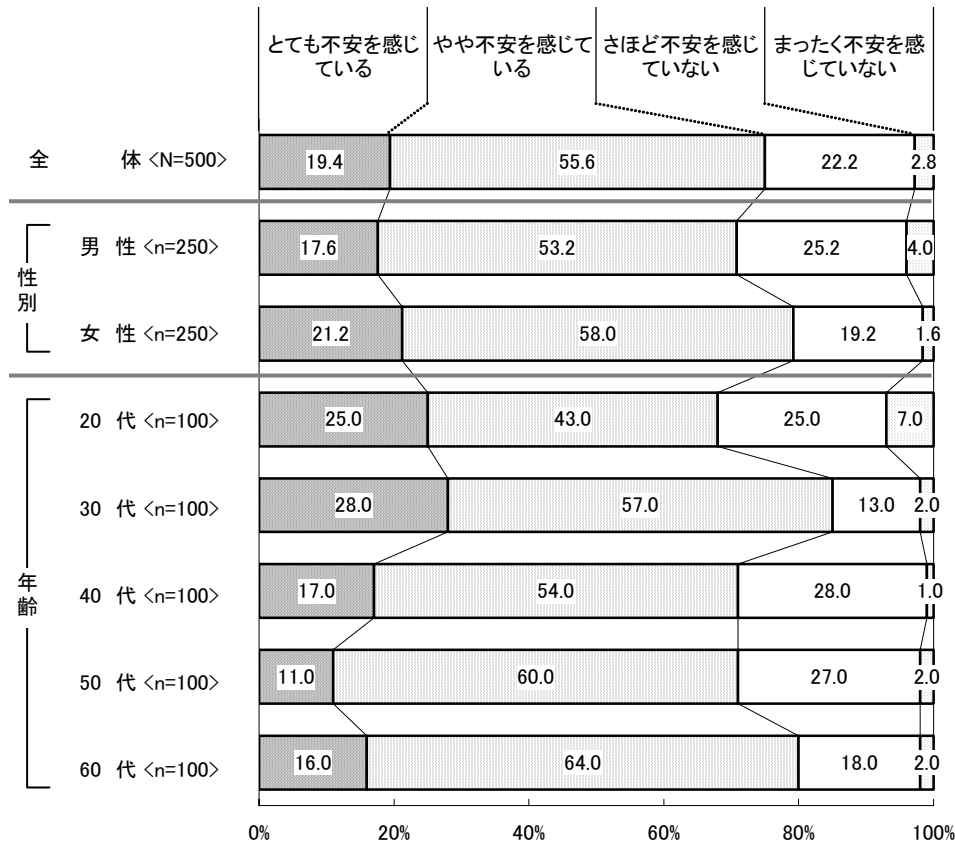
この 1 年間にインフルエンザに感染した 24 人に、感染した場所と相手を聞いたところ、表のように結果になりました。

場所は「自宅で」（7 件）が最も多く、その中には「子どもから」（4 件）が最も多くなっています。感染した場所が多いのは以下、「職場で」（5 件）、「通勤中」（4 件）、「学校で」（2 件）などとなっています。

2. インフルエンザに関してどの程度不安を感じているか

- ◆“不安を感じている”(75.0%)が大半を占めるが、「さほど不安を感じていない」(22.2%)油断している人も
- ◆“不安を感じている”理由は、「子供・孫がいるから」(45件)、「いつどこで感染するかわからないから」(42件)、「亡くなっている人がいるから」(37件)がトップ3
- ◆“不安を感じていない”人は、「手洗いやうがいなど、予防を心がけているから」(18件)という“慎重派”と、「重症化や死に至る可能性は低いから」「自分がかからないと思うから」(それぞれ13件)という“楽観派”に分かれる

図 3. インフルエンザに関してどの程度不安を感じているか



新型、従来型を問わず、インフルエンザに関してどの程度不安を感じているかを聞いたところ、“不安を感じている(とても+やや)”(75.0%)が4分の3を占めています。しかしながら「さほど不安を感じていない」(22.2%)という人も2割程度みられ、油断している人も少なくないようです。

性別にみると、“不安を感じている”人は《女性》(79.2%)の方が《男性》(70.8%)よりやや多くなっています。

年代別にみると、“不安を感じている人”は《30代》(85.0%)、《60代》(80.0%)で8割を超えています。一方、「とても不安を感じている」に限定してみると、《30代》(28.0%)、《20代》(25.0%)で高率になっており、強い不安を感じている人は若い世代に多いようです。

表 2. “不安を感じている”理由（自由回答：件）

順位		件数
1	子供・孫がいるから	45
2	いつどこで感染するかわからないから	42
3	亡くなっている人がいるから	37
4	治療薬・ワクチンが不足しているから	31
5	自分または家族に持病があるから	30
6	感染者が多く、今後も拡大しそうだから	29
	仕事を休まないといけなくなるから	29
8	感染力が強いから	18
9	自分または家族が高齢だから	16
	感染した時の症状がよくわからないから	16
11	地域や職場など身近で感染者が出たから	15
12	ニュースで取上げられているから	12
13	予防法や対処法がよくわからないから	11
	人ごみに出るから	11
15	職場での感染が心配だから	10
	免疫がないから	10
17	重症化や高い死亡率に不安があるから	9
	生活に支障が出るから	9
	身近にかかっている人がいないから・何となく不安だから	9
20	自分または家族が妊娠しているから	8
	感染した時に周囲に迷惑がかかるから	8
22	体力や抵抗力がない(以前より落ちてきている)から	7
23	ウイルスの変異が心配だから	6
24	受験生がいるから	5
	人と接することが多いから	5
26	以前インフルエンザにかかったことがあるから	4
27	日本の経済にも影響しそうだから	3
	医療機関の体制が追いつかなさそうだから	3
	周囲でマスクをしている人が少ないから	3
	通院している病院・診療所で感染する恐れがあるから	3
	その他	38

“不安を感じている”と答えた人にその理由をたずねたところ、上の表のようにさまざまな回答があげられました。

「子供・孫がいるから」(45件)が最も多く、また、「自分または家族に持病があるから」(30件)、「自分または

家族が高齢だから」(16件)といった声もみられ、重症化しやすい条件の人が家族にいることが大きな理由のひとつとなっています。また、「いつどこで感染するかわからないから」(42件)、「亡くなっている人がいるから」(37件)、「治療薬・ワクチンが不足しているから」(31件)、「感染者が多く、今後も拡大しそうだから」(29件)、「感染力が強いから」(18件)などのように、症状の重さ、治療の難しさ、感染の広がる速さをあげる人も少なくありません。そのほか、「仕事を休まないといけなくなるから」(29件)、「生活に支障が出るから」(9件)のように、収入など生活へのダメージを恐れる人もみられます。

表 3. “不安を感じない”理由(自由回答:件)

順位		件数
1	手洗いやうがいなど、予防を心がけているから	18
2	重症化や死に至る可能性は低いから	13
	自分がかからないと思うから	13
	周囲に感染した人がいないから	13
5	自分、もしくは家族が持病を持っていないから	12
	体力や免疫力に自信があるから	12
	かかる時はかかるし、心配しても仕方がないから	12
8	季節性のインフルエンザと変わらないと思うから	9
9	人ごみに出ないから	8
10	あまり外出をしないから	7
	弱毒性といわれているから	7
12	今までかかったことがないから	6
	ニュースなどで騒ぎすぎだと思うから	6
14	薬でよくなると思うから	5
15	自分、もしくは家族が予防接種をしているから	4
	その他	13

一方、“不安を感じない”人にその理由を聞いたところ、「手洗いやうがいなど、予防を心がけているから」(18件)という“慎重派”と、「重症化や死に至る可能性は低いから」「自分がかからないと思うから」(それぞれ13件)、「体力は免疫力に自信があるから」(12件)といった“楽観派”に分かれるようです。そのほか、「周囲に感染した人がいないから」(13件)という人もみられ、インフルエンザの猛威が迫っているという実感をまだ持っていない人も少なくないようです。

3. インフルエンザ対策を十分に行っていると思うか

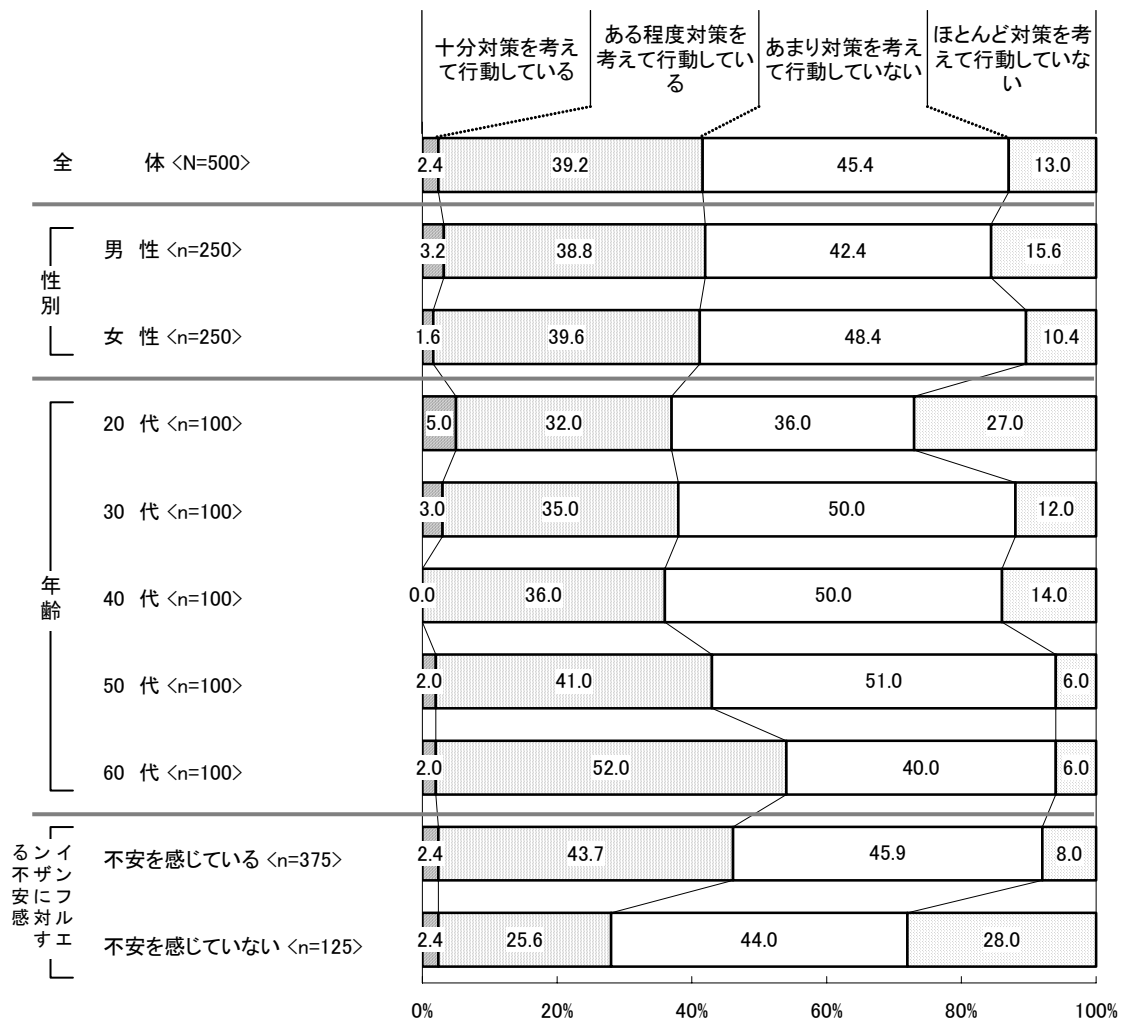
◆【外出時】は“考えて行動していない”(58.4%)が約6割を占める

-----上の年代ほど対策をとっている人が多く、《20代》《30代》は不安とは裏腹に“考えて行動していない”人が多い

◆【在宅時】は“考えて行動している”“考えて行動していない”(それぞれ 50.0%)が半々

-----《女性》《60代》は自宅でも対策を考えている人が多い

図 4. インフルエンザ対策を十分に行っていると思うか【外出時】



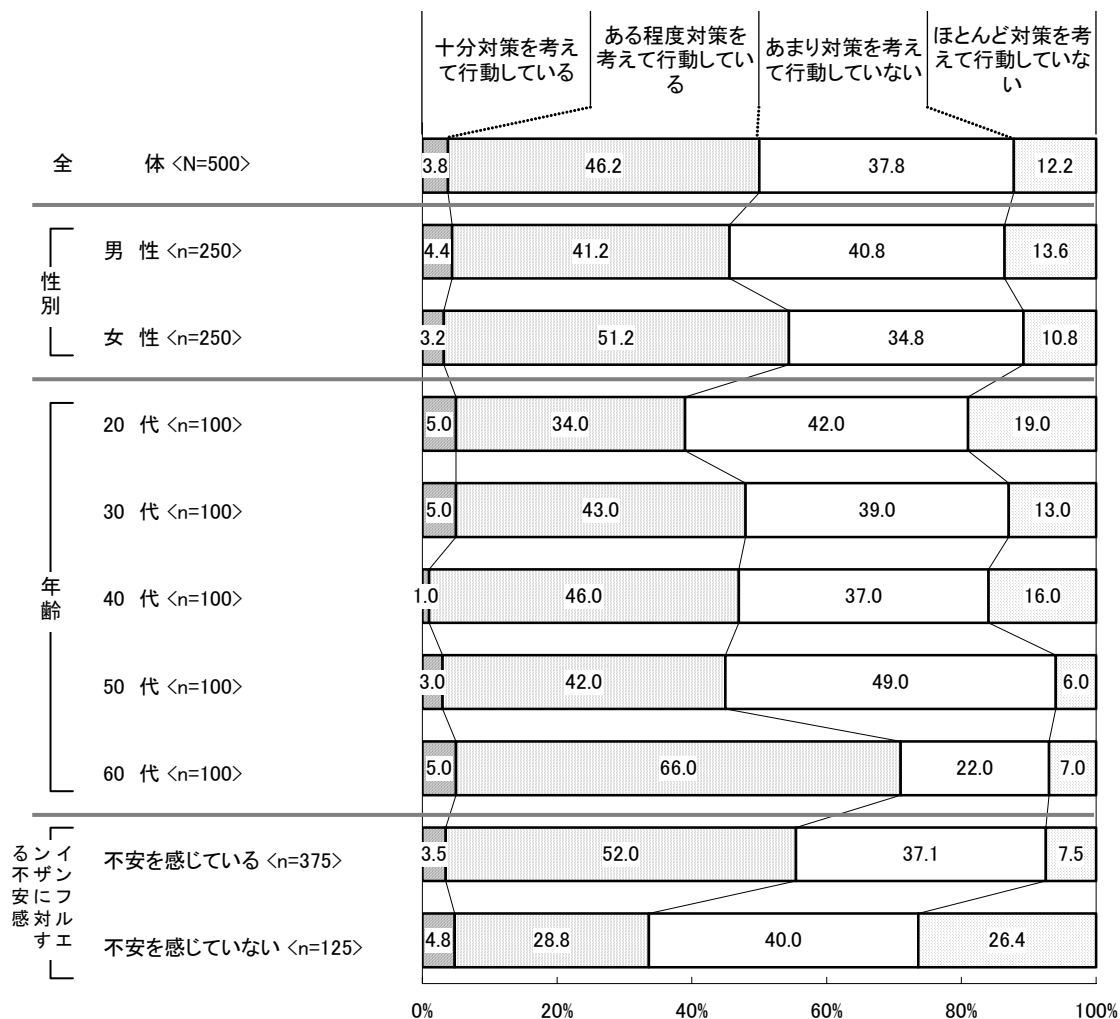
次に、インフルエンザ対策を十分に考えて行動しているかを、外出時と在宅時それぞれについて聞きました。

【外出時】についてみると、“考えて行動している（十分+ある程度）”という人は4割程度（41.6%）で、“考えて行動していない（あまり+ほとんど）”（58.4%）が上回っています。特に、「ほとんど対策を考えて行動していない」も1割強みられ（13.0%）、危機感をあまり持っていない人もいます。

性別では目立った差はみられませんが、年代別にみると上の年代の方が“考えて行動している”人が多くなっています。一方、前の問では感染に対して「とても不安を感じている」が多かった《20代》《30代》ですが、外出時に“考えて行動している”人はいずれも4割を下回り（それぞれ37.0%、38.0%）、心配とは裏腹に用心の足りない人が多いようです。特に、《20代》では「ほとんど対策を考えて行動していない」（27.0%）が4分の1以上を占めています。

インフルエンザに対する不安感別にみると、“考えて行動している”人の割合は、《不安を感じている》(46.1%)方が《不安を感じていない》(28.0%)より多くなっています。

図 5. インフルエンザ対策を十分に行っていると思うか【在宅時】



【在宅時】についてみると、“考えて行動している” (50.0%) が半数に達し、【外出時】 (41.6%) と比べるとやや多くなっています。しかし、「十分対策を考えて行動している」 (3.8%) は少数にとどまっており、それに対して「ほとんど対策を考えて行動していない」 (12.2%) は1割を超えています。

性別にみると、“考えて行動している”は《女性》 (54.4%)の方が《男性》 (45.6%)よりやや多くなっています。

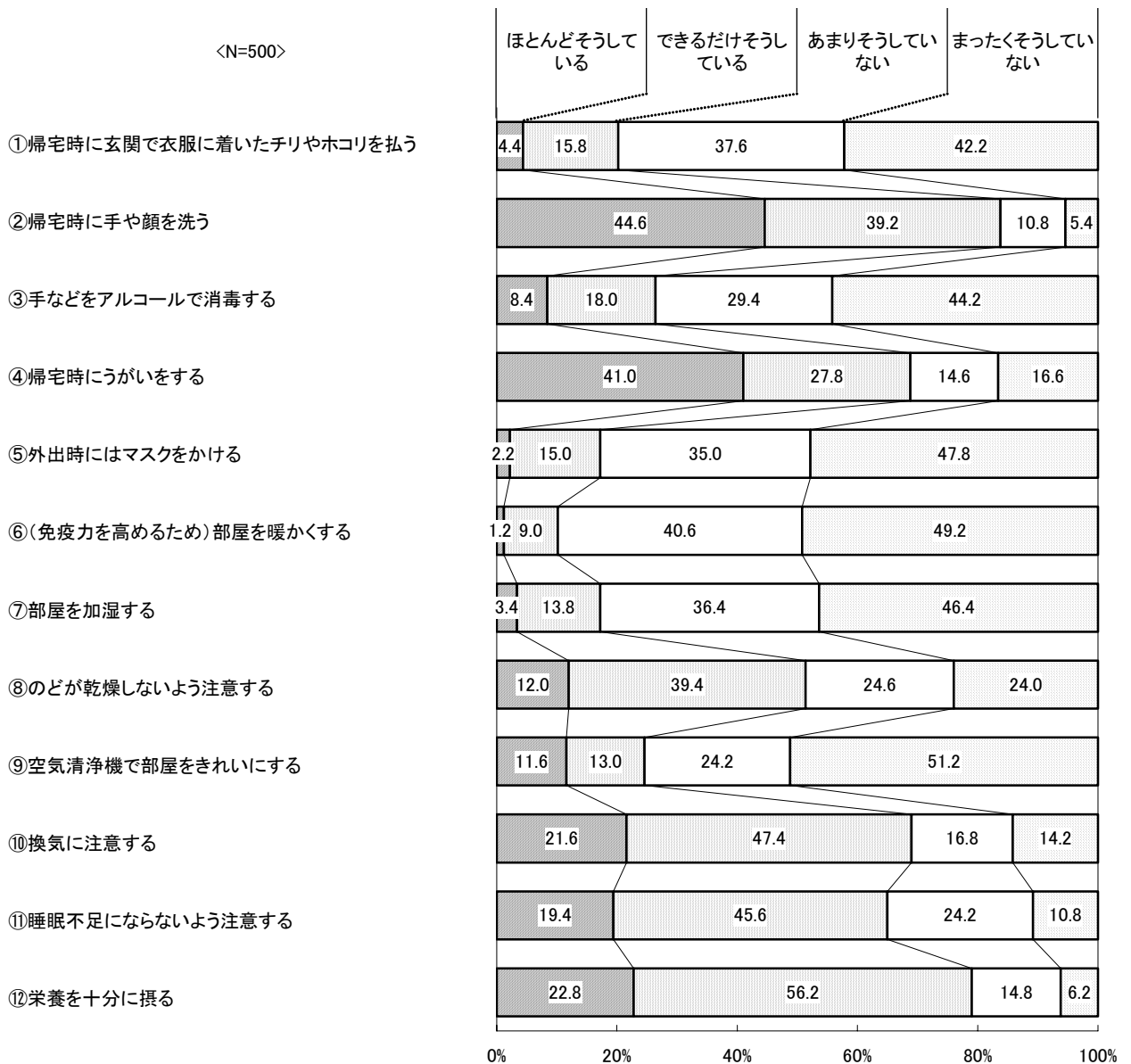
年代別にみると、《60代》では“考えて行動している”人が7割 (71.0%)を超え、上の年代では自宅でも用心している人が多いようです。

インフルエンザに対する不安感別にみると、“考えて行動している”の割合は、《不安を感じている》 (55.5%)の方が《不安を感じていない》 (33.6%)より20ポイント以上高くなっています。

4. 家でのインフルエンザ予防対策

- ◆「帰宅時に手や顔を洗う」(83.8%)が最も多い。以下、「栄養を十分に摂る」(79.0%)、「換気に注意する」(69.0%)、「帰宅時にうがいをする」(68.8%)、「睡眠不足にならないよう注意する」(65.0%)など
- ◆できていないと思う対策は、「手などをアルコールで消毒する」(46.4%)、「外出時にはマスクをかける」(45.0%)が上位

図 6. 家でのインフルエンザ予防対策をどの程度行っているか

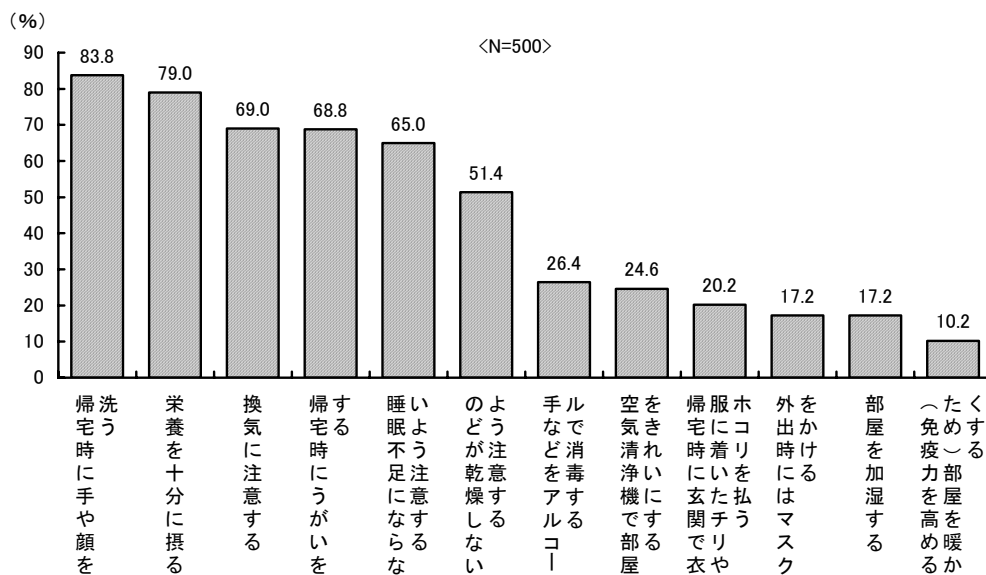


次に、家では具体的な対策をどの程度行っているか、12項目についてたずねました。

“そうしている(ほとんど+できるだけ)”の割合は「帰宅時に手や顔を洗う」(83.8%)が最も高く、次いで「栄養を十分に摂る」(79.0%)が続いており、ウイルスを家に持ち込まないこと、抵抗力をつけることが2大対策と言えそうです。以下、「換気に注意する」(69.0%)、「帰宅時にうがいをする」(68.8%)、「睡眠不足にならないよう注意する」(65.0%)、「のどが乾燥しないよう注意する」(51.4%)などが続いています。特に「帰宅時に手や顔を洗う」「帰宅時にうがいをする」の2項目は、「ほとんどそうしている」が4割と多く(それぞれ44.6%、41.0%)、

家での対策として重視している人が多いようです。一方、「部屋を加湿する」(17.2%)、「(免疫力を高めるため)部屋を暖かくする」(10.2%)など、部屋の温度、湿度のコントロールをしている人は比較的少数にとどまっています。

図 7. 家でのインフルエンザ予防対策をどの程度行っているか<“そうしている”の割合>【属性別】



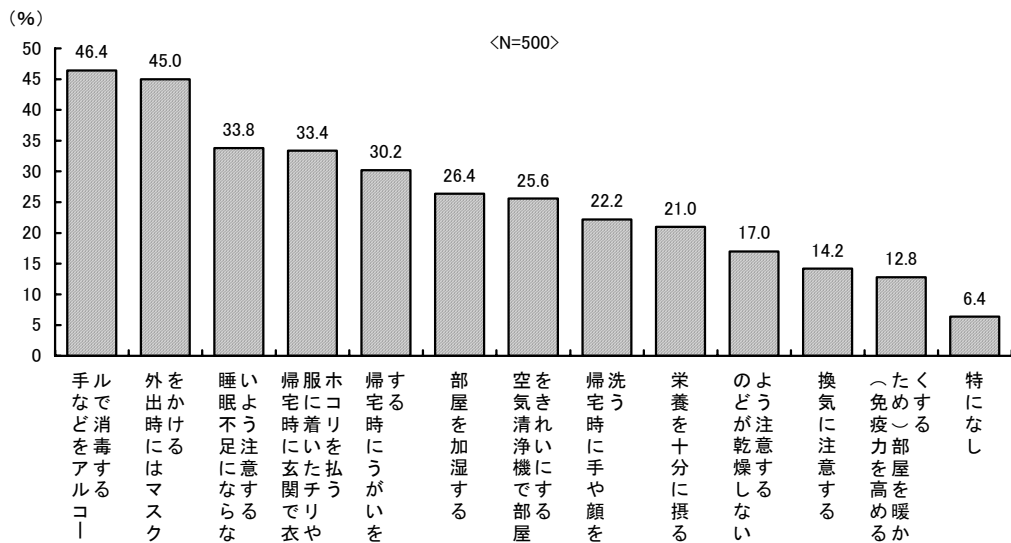
性別	男性 <n=250>	78.0	76.4	59.2	66.0	58.0	43.2	24.0	22.0	22.0	14.0	14.8	9.2
	女性 <n=250>	89.6	81.6	78.8	71.6	72.0	59.6	28.8	27.2	18.4	20.4	19.6	11.2
年齢	20代 <n=100>	83.0	77.0	66.0	66.0	57.0	52.0	26.0	16.0	18.0	16.0	18.0	11.0
	30代 <n=100>	84.0	78.0	72.0	68.0	64.0	48.0	34.0	26.0	17.0	16.0	24.0	11.0
	40代 <n=100>	84.0	79.0	65.0	68.0	62.0	54.0	25.0	20.0	19.0	13.0	13.0	9.0
	50代 <n=100>	77.0	71.0	61.0	59.0	60.0	46.0	23.0	29.0	13.0	16.0	9.0	7.0
	60代 <n=100>	91.0	90.0	81.0	83.0	82.0	57.0	24.0	32.0	34.0	25.0	22.0	13.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	86.7	82.7	72.0	72.8	66.9	54.4	29.3	26.7	21.6	20.8	18.7	10.9
	不安を感じていない <n=125>	75.2	68.0	60.0	56.8	59.2	42.4	17.6	18.4	16.0	6.4	12.8	8.0

“そうしている”割合を性別にみると、全体に《女性》の方がさまざまな対策を行っており、特に「帰宅時に手や顔を洗う」(男性 78.0%、女性 89.6%)、「換気に注意する」(男性 59.2%、女性 78.8%)、「睡眠不足にならないよう注意する」(男性 58.0%、女性 72.0%)、「のどが乾燥しないよう注意する」(男性 43.2%、女性 59.6%)は10ポイント以上の差が生じています。自宅でも用心を怠らない傾向は、《女性》の方が強いのかもかもしれません。

年代別にみると、全体に《60代》でさまざまな対策を行う人が多くなっています。

インフルエンザに対する不安感別にみると、当然ながら《不安を感じている》層の方が、対策を行っている人が多くなっています。

図 8. 実施した方が良いと思うが、できていない家での予防対策（複数回答）



性別	男性 <n=250>	45.2	40.4	33.6	31.2	31.6	26.4	27.2	23.6	20.8	18.4	14.8	14.4	10.0
	女性 <n=250>	47.6	49.6	34.0	35.6	28.8	26.4	24.0	20.8	21.2	15.6	13.6	11.2	2.8
年齢	20代 <n=100>	42.0	43.0	29.0	32.0	27.0	33.0	34.0	20.0	24.0	14.0	14.0	13.0	6.0
	30代 <n=100>	48.0	51.0	31.0	37.0	25.0	27.0	25.0	17.0	20.0	14.0	9.0	12.0	4.0
	40代 <n=100>	46.0	35.0	39.0	31.0	34.0	28.0	22.0	24.0	20.0	21.0	15.0	11.0	6.0
	50代 <n=100>	43.0	51.0	41.0	26.0	43.0	16.0	19.0	28.0	28.0	15.0	18.0	6.0	9.0
	60代 <n=100>	53.0	45.0	29.0	41.0	22.0	28.0	28.0	22.0	13.0	21.0	15.0	22.0	7.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	50.4	50.1	36.3	36.8	28.8	29.6	28.3	20.8	21.1	18.4	14.7	14.4	2.9
	不安を感じていない <n=125>	34.4	29.6	26.4	23.2	34.4	16.8	17.6	26.4	20.8	12.8	12.8	8.0	16.8

次に、実際にはできていない予防対策をあげてもらったところ、「手などをアルコールで消毒する」(46.4%)、「外出時にはマスクをかける」(45.0%)が抜きんで多く、手洗い、うがいだけではウイルス侵入のリスクにまだ不安が残るとい人が多いのかもしれない。以下、「睡眠不足にならないよう注意する」(33.8%)、「帰宅時に玄関で衣服に着いたチリやホコリを払う」(33.4%)、「帰宅時にうがいをする」(30.2%)、「部屋を加湿する」(26.4%)、「空気清浄機で部屋をきれいにする」(25.6%)、「帰宅時に手や顔を洗う」(22.2%)、「栄養を十分に摂る」(21.0%)などが続き、ほとんどの人(93.6%)が何かしらできていないと思う対策をあげています。

性別にみると、「外出時にはマスクをかける」は《女性》(49.6%)の方が《男性》(40.4%)よりやや高率ですが、そのほかは目立った差はみられません。

年代別においても明らかな差はみられません。

インフルエンザに対する不安感別にみると、全体に《不安を感じている》方が高くなっていますが、「帰宅時にうがいをする」(不安を感じている 28.8%、不安を感じていない 34.4%)、「帰宅時に手や顔を洗う」(同 20.8%、26.4%)の2項目は、《不安を感じていない》方が若干高く、ごく基本的な対策においても“できていない”と思っている人が少なくないと考えられます。

表 4. そのほかに行っているインフルエンザ予防対策（自由回答：件）

順位		件数
1	タオルを使い分ける・まめに交換する	24
2	外出を控える	17
3	運動や食事で免疫力をつける	12
4	体調管理に努める	11
5	衣類や食器などをこまめに洗う	9
6	掃除をする・とにかく清潔を心がける	7
7	食器やテーブルなど消毒をする	6
8	お茶を飲む	5
9	家族で互いに注意し合う	3
10	帰宅したらすぐに服を着替える	2
	食事の時に大皿を使わない	2
	体調の悪い時は早めに病院に行く	2
	その他	25
	特になし	435

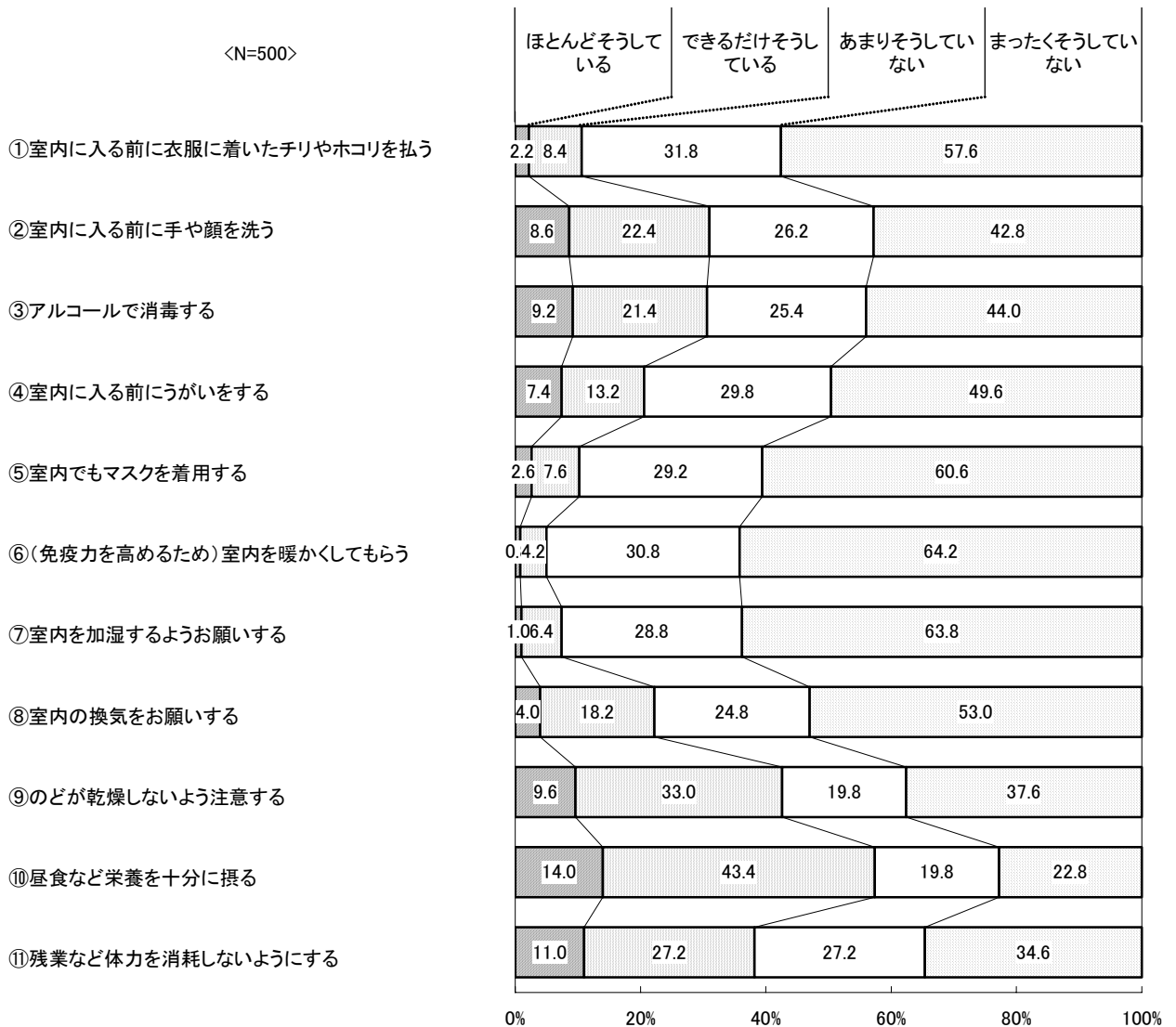
上であげてもらったほかに行っている予防対策をあげてもらったところ、「特になし」が多数を占めましたが、そのほかでは「タオルを使い分ける・まめに交換する」（24件）が最も多く、次いで「外出を控える」（17件）が続き、人から人への感染をより徹底して防ごうという姿勢がうかがえます。また、「運動や食事で免疫力をつける」（12件）、「体調管理に努める」（11件）など、体のコンディショニングに気を配っている人もみられます。

5. 外出先でのインフルエンザ予防対策

◆「昼食など栄養を十分に摂る」(57.4%)が最も多い。次いで「のどが乾燥しないよう注意する」(42.6%)、「残業など体力を消耗しないようにする」(38.2%)、「室内に入る前に手や顔を洗う」(31.0%)など

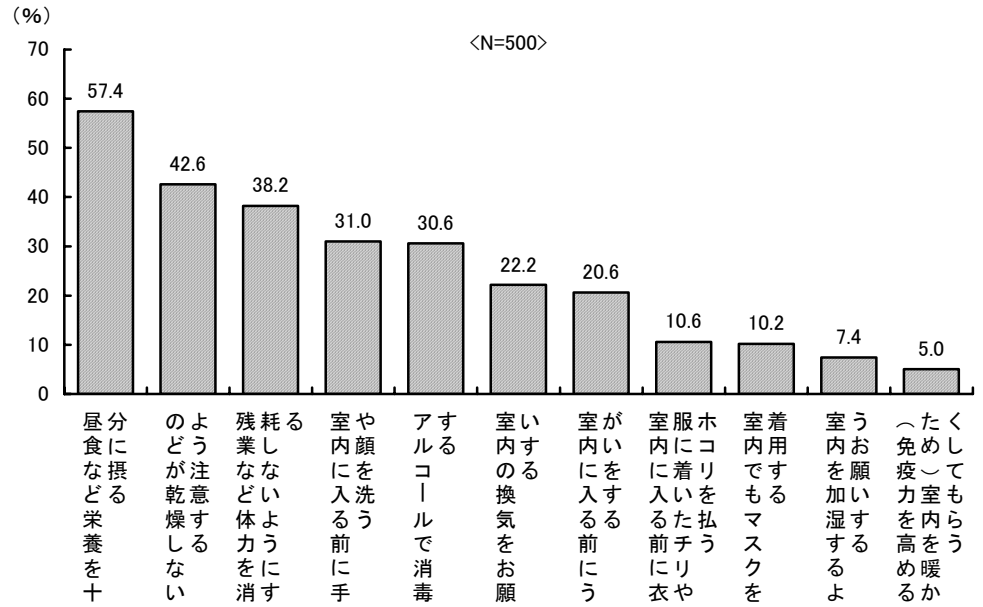
◆できていないと思う対策は、「アルコールで消毒する」(42.0%)がトップ。以下、「室内に入る前にうがいをする」(33.2%)、「室内に入る前に手や顔を洗う」(32.8%)、「室内でもマスクを着用する」(32.2%)など

図 9. 外出先でのインフルエンザ予防対策をどの程度行っているか



次に、勤務先や学校など、外出先でのインフルエンザ予防対策をどの程度行っているかをみると、“そうしている”の割合は「昼食など栄養を十分に摂る」(57.4%)が最も多く、次いで「のどが乾燥しないよう注意する」(42.6%)、「残業など体力を消耗しないようにする」(38.2%)、「室内に入る前に手や顔を洗う」(31.0%)、「アルコールで消毒する」(30.6%)などが続いています。しかし、「室内に入る前に手や顔を洗う」「室内の換気をお願いする」「室内に入る前にうがいをする」の3項目は、在宅時と比べると実施率がかなり低く、外出先ではウイルス感染への対策が疎かになっていると考えられます。また、「室内を加湿するようお願いする」(7.4%)、「(免疫力を高めるため)室内を暖かくしてもらう」(5.0%)も低くなっていますが、ほかの人も多数いる部屋では、自分の体調に合うように空気のコントロールをお願いするのは難しいのかもしれない。

図 10. 外出先でのインフルエンザ予防対策をどの程度行っているか＜“そうしている”の割合＞【属性別】

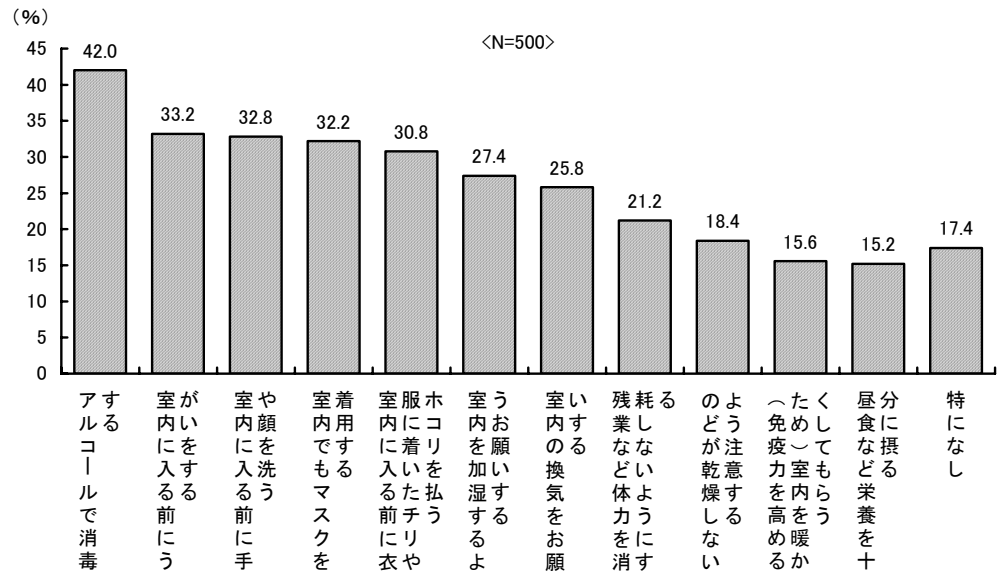


性別	男性 <n=250>	57.4	42.6	38.2	31.0	30.6	22.2	20.6	10.6	10.2	7.4	5.0
	女性 <n=250>	56.0	46.0	39.6	30.8	32.4	19.2	18.8	8.4	10.8	6.0	3.2
年齢	20代 <n=100>	58.0	39.0	35.0	32.0	33.0	19.0	19.0	8.0	13.0	8.0	3.0
	30代 <n=100>	57.0	46.0	40.0	25.0	37.0	21.0	16.0	10.0	10.0	8.0	3.0
	40代 <n=100>	63.0	42.0	40.0	44.0	32.0	18.0	34.0	10.0	14.0	4.0	6.0
	50代 <n=100>	44.0	41.0	31.0	24.0	27.0	23.0	12.0	6.0	7.0	4.0	5.0
	60代 <n=100>	65.0	45.0	45.0	30.0	24.0	30.0	22.0	19.0	7.0	13.0	8.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	60.3	44.5	41.6	33.1	33.3	23.5	21.6	10.9	12.3	8.3	5.3
	不安を感じていない <n=125>	48.8	36.8	28.0	24.8	22.4	18.4	17.6	9.6	4.0	4.8	4.0

性、年代別では明らかな差はみられません。

インフルエンザに対する不安感別にみると、全体に《不安を感じている》方が、各種対策を行っている人が多くなっています。

図 11. 実施した方が良いと思うが、できていない外出先の予防対策（複数回答）



性別	男性 <n=250>	40.0	28.4	29.2	27.2	28.8	25.2	21.6	25.2	16.0	14.4	17.2	20.0
	女性 <n=250>	44.0	38.0	36.4	37.2	32.8	29.6	30.0	17.2	20.8	16.8	13.2	14.8
年齢	20代 <n=100>	36.0	41.0	35.0	31.0	29.0	25.0	32.0	22.0	18.0	18.0	17.0	20.0
	30代 <n=100>	45.0	32.0	32.0	40.0	36.0	26.0	22.0	18.0	18.0	17.0	13.0	14.0
	40代 <n=100>	43.0	36.0	35.0	29.0	30.0	32.0	25.0	24.0	20.0	12.0	10.0	13.0
	50代 <n=100>	42.0	29.0	30.0	26.0	17.0	24.0	21.0	23.0	14.0	9.0	19.0	20.0
	60代 <n=100>	44.0	28.0	32.0	35.0	42.0	30.0	29.0	19.0	22.0	22.0	17.0	20.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	46.1	36.3	35.7	37.1	35.5	31.2	28.3	23.2	20.0	17.6	15.5	13.3
	不安を感じていない <n=125>	29.6	24.0	24.0	17.6	16.8	16.0	18.4	15.2	13.6	9.6	14.4	29.6

外出時、実施した方が良いと思うができていない対策をみると、在宅時と同じく「アルコールで消毒する」(42.0%)がトップで、以下、「室内に入る前にうがいをする」(33.2%)、「室内に入る前に手や顔を洗う」(32.8%)、「室内でもマスクを着用する」(32.2%)、「室内に入る前に衣服に着いたチリやホコリを払う」(30.8%)が僅差で続いています。うがい、手洗い・洗顔はウイルスから身を守る基本と言えますが、外出時は大切と知りながらつい忘れてしまう人が多いのかもしれませんが。

性別にみると、「室内に入る前にうがいをする」(男性 28.4%、女性 38.0%)、「室内でもマスクを着用する」(同 27.2%、37.2%)、「室内の換気をお願いする」(同 21.6%、30.0%)の3項目は《女性》の方が高く、「残業など体力を消耗しないようにする」(男性 25.2%、女性 17.2%)は《男性》の方が高くなっています。

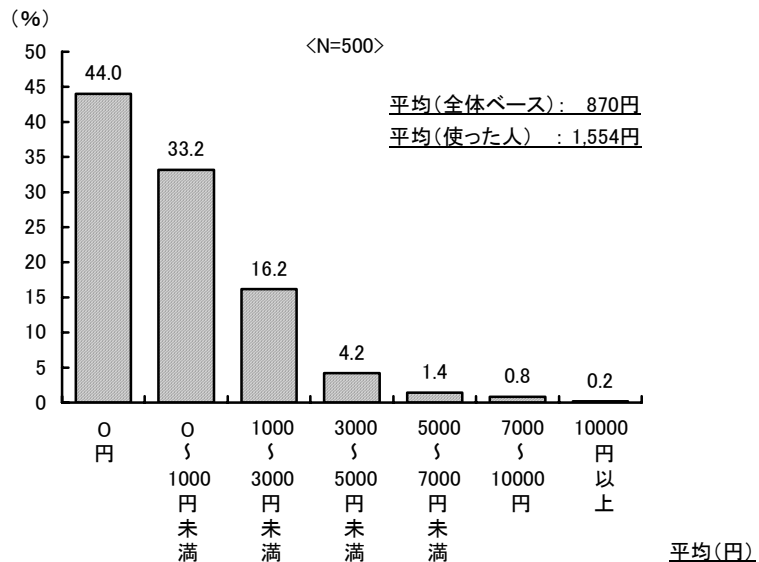
年代別にみると、《60代》では「室内に入る前に衣服に着いたチリやホコリを払う」(42.0%)をあげる人が比較的多めになっていますが、そのほかに目立った傾向の差はみられません。

インフルエンザに対する不安感別にみると、「昼食など栄養を十分に摂る」のほかは、《不安を感じている》層の方が対策が“できていない”という人が多くなっています。

6. 最近1ヵ月間にインフルエンザ対策に使った金額

- ◆いくらかでもお金を使った人は半数強(56.0%)で、「0～1,000円未満」(33.2%)が最も多い。平均は「1,553円」
- ◆インフルエンザ対策に購入したものは、「マスク」(73.6%)が断然多い。以下、「薬用石けん」(35.0%)、「うがい薬」(28.9%)、「のど飴・暖かい飲み物」(28.6%)など

図 12. 最近1ヵ月間にインフルエンザ対策に使った金額



性別	金額範囲								平均(円)
	0円	0円未満	1000円未満	3000円未満	5000円未満	7000円未満	10000円以上	割合 (%)	
男性 <n=250>	45.2	32.8	15.6	3.6	1.2	1.6	-		828
女性 <n=250>	42.8	33.6	16.8	4.8	1.6	-	0.4		912
年齢	20代 <n=100>	60.0	22.0	15.0	1.0	1.0	1.0	-	595
	30代 <n=100>	43.0	37.0	14.0	3.0	2.0	1.0	-	790
	40代 <n=100>	38.0	45.0	13.0	4.0	-	-	-	645
	50代 <n=100>	44.0	30.0	16.0	5.0	3.0	2.0	-	1,020
	60代 <n=100>	35.0	32.0	23.0	8.0	1.0	-	1.0	1,300
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	37.6	35.7	18.4	5.3	1.6	1.1	0.3	1,027
	不安を感じていない <n=125>	63.2	25.6	9.6	0.8	0.8	-	-	400

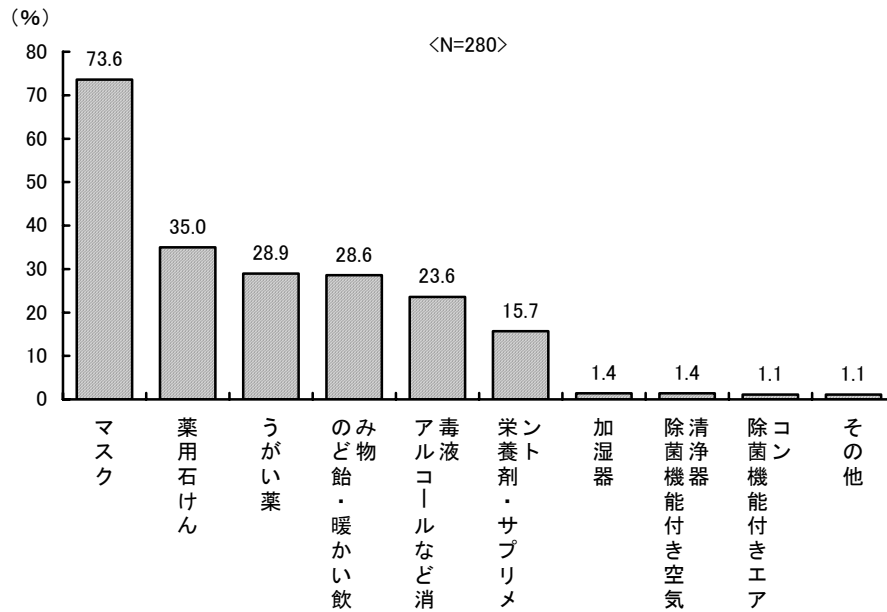
最近1ヵ月間にインフルエンザ対策に使った金額は、「0円」(44.0%)が4割を超えて最も多く、以下、「0～1,000円未満」(33.2%)、「1,000～3,000円未満」(16.2%)、「3,000～5,000円未満」(4.2%)と、高額になるほど少なくなっています。なお、「0円」の人も含めた平均金額は「870.0円」、いくらかでも“使った”人(56.0%)ベースでは「1,554円」です。

性別に平均金額(全体ベース)をみると、《女性》(912円)の方が《男性》(828円)より若干高くなっています。

年代別にみると、《50代》以上で平均金額が1,000円以上と目立って高くなり、《60代》(1,300円)で最も高くなっています。

インフルエンザに対する不安感別にみると、平均金額は《不安を感じている》(1027円)の方が《不安を感じていない》(400円)より2倍以上高くなっています。

図 13. どのようなものにお金を使ったか（複数回答）



性別	男性 <n=137>	65.7	31.4	33.6	30.7	21.2	18.2	1.5	2.2	0.7	0.7
	女性 <n=143>	81.1	38.5	24.5	26.6	25.9	13.3	1.4	0.7	1.4	1.4
年齢	20代 <n=40>	77.5	40.0	32.5	35.0	35.0	15.0	-	-	-	-
	30代 <n=57>	66.7	29.8	15.8	31.6	24.6	8.8	1.8	-	1.8	3.5
	40代 <n=62>	69.4	25.8	29.0	21.0	17.7	12.9	1.6	1.6	-	-
	50代 <n=56>	76.8	42.9	17.9	23.2	25.0	17.9	1.8	-	3.6	-
	60代 <n=65>	78.5	38.5	47.7	33.8	20.0	23.1	1.5	4.6	-	1.5

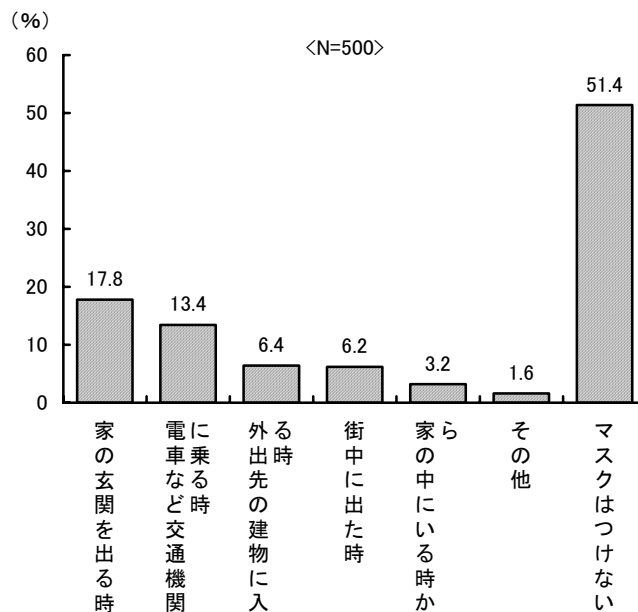
インフルエンザ対策にお金を使った人に、何を購入したかを聞いたところ、「マスク」(73.6%)が断然多く、以下、「薬用石けん」(35.0%)、「うがい薬」(28.9%)、「のど飴・暖かい飲み物」(28.6%)、「アルコール消毒液」(23.6%)、「栄養剤・サプリメント」(15.7%)が続いています。一方、「加湿器」(1.4%)、「除菌機能付き空気清浄器」(1.4%)などの家電製品を購入した人は少数となっています。

性別にみると、「マスク」購入者は《女性》(81.1%)の方が《男性》(65.7%)より明らかに多いのに対し、「うがい薬」は《男性》(33.6%)の方が《女性》(24.5%)よりやや多くなっています。

7. マスクはどこでつけて、どこではずすことが多いか

- ◆マスクをつけるのは、「家の玄関を出る時」(17.8%)、「電車など交通機関に乗る時」(13.4%)、「外出先の建物に入る時」(6.4%)など、外気に触れる瞬間、人の多い場所に行く時が多い
- ◆マスクを外すのは、「家の中に入る時」(21.4%)、次いで「家の玄関先で」(15.4%)が多く、家の中でも着用する人は少ない

図 14. マスクはどこでつけることが多いか



性別	男性 <n=250>	14.0	13.2	6.0	6.8	2.4	1.6	56.0
	女性 <n=250>	21.6	13.6	6.8	5.6	4.0	1.6	46.8
年齢	20代 <n=100>	18.0	9.0	5.0	5.0	3.0	1.0	59.0
	30代 <n=100>	17.0	12.0	6.0	3.0	8.0	2.0	52.0
	40代 <n=100>	15.0	15.0	5.0	12.0	-	3.0	50.0
	50代 <n=100>	22.0	15.0	5.0	7.0	2.0	1.0	48.0
	60代 <n=100>	17.0	16.0	11.0	4.0	3.0	1.0	48.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	20.8	14.1	8.0	6.9	3.5	1.6	45.1
	不安を感じていない <n=125>	8.8	11.2	1.6	4.0	2.4	1.6	70.4

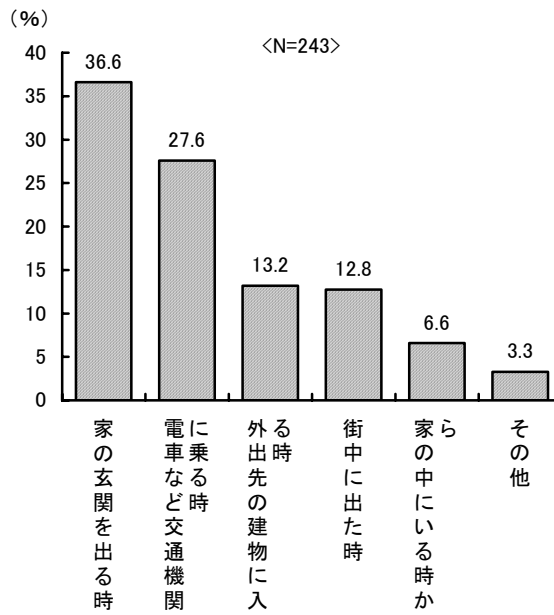
次に、マスクの使用状況について聞きました。

まず、マスクをどこでつけるかをみると、「マスクはつけない」(51.4%)が半数を占めるほかは、「家の玄関を出る時」(17.8%)が最も多く、以下、「電車など交通機関に乗る時」(13.4%)、「外出先の建物に入る時」(6.4%)などが続いています。外気に触れる瞬間や、人の多い場所に行く時を警戒する人が多いようです。一方、「家の中にいる時から」(3.2%)は少数で、感染者が家族にいない限り、家の中の空気に不安を感じる人は少ないのかもしれない。

性別にみると、「家の玄関を出る時」は《女性》(21.6%)の方が《男性》(14.0%)よりやや高くなっています。一方、《男性》では「マスクはつけない」(56.0%)という人が比較的多くみられます。

年代別では明らかな差はみられません。

図 15. マスクはどこでつけることが多いか <マスク利用者ベース>

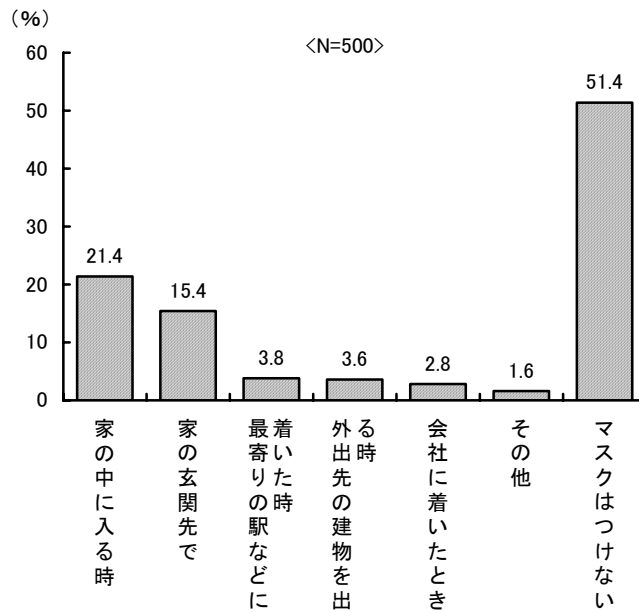


性別	男性 <n=110>	31.8	30.0	13.6	15.5	5.5	3.6
	女性 <n=133>	40.6	25.6	12.8	10.5	7.5	3.0
年齢	20代 <n=41>	43.9	22.0	12.2	12.2	7.3	2.4
	30代 <n=48>	35.4	25.0	12.5	6.3	16.7	4.2
	40代 <n=50>	30.0	30.0	10.0	24.0	-	6.0
	50代 <n=52>	42.3	28.8	9.6	13.5	3.8	1.9
	60代 <n=52>	32.7	30.8	21.2	7.7	5.8	1.9
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=206>	37.9	25.7	14.6	12.6	6.3	2.9
	不安を感じていない <n=37>	29.7	37.8	5.4	13.5	8.1	5.4

マスク利用者ベースでみると、「家の玄関を出る時」(36.6%)が3割以上を占め、次いで「電車など交通機関に乗る時」(27.6%)が続き、この2項目が多くなっています。

ちなみに、「家の玄関を出る時」(36.6%)、「家の中にいる時から」(6.6%)など、外出する前からマスクをつけている人は4割強(43.2%)で、外出してからマスクをつける人の方がやや多くなっています。

図 16. マスクはどこで外すことが多いか



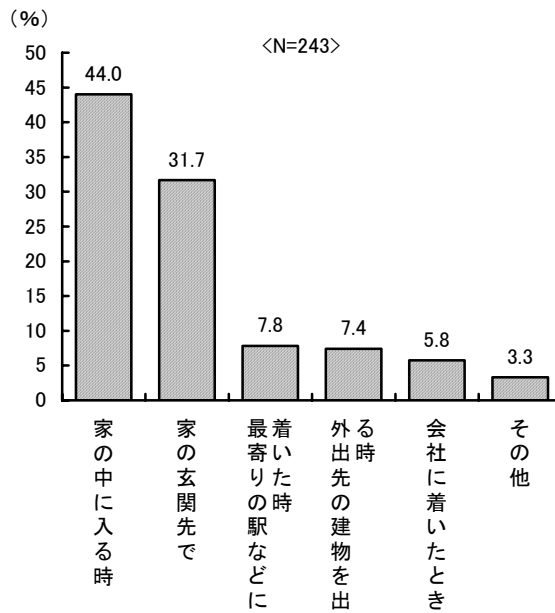
性別	男性 <n=250>	20.4	12.8	3.2	3.2	3.6	0.8	56.0
	女性 <n=250>	22.4	18.0	4.4	4.0	2.0	2.4	46.8
年齢	20代 <n=100>	20.0	11.0	2.0	4.0	2.0	2.0	59.0
	30代 <n=100>	20.0	15.0	4.0	4.0	1.0	4.0	52.0
	40代 <n=100>	24.0	17.0	2.0	4.0	2.0	1.0	50.0
	50代 <n=100>	16.0	22.0	8.0	1.0	4.0	1.0	48.0
	60代 <n=100>	27.0	12.0	3.0	5.0	5.0	-	48.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	25.1	16.5	3.7	4.8	2.9	1.9	45.1
	不安を感じていない <n=125>	10.4	12.0	4.0	-	2.4	0.8	70.4

次に、マスクをどこで外すかをみると、「家の中に入る時」(21.4%)、次いで「家の玄関先で」(15.4%)が多く、やはり“家に入ればひと安心”という気持ちがあるがえす。そのほかは「最寄りの駅などに着いた時」(3.8%)、「外出先の建物を出る時」(3.6%)など、外出中でも人混みから離れたらマスクを外すという人もみられます。

性、年代別では、マスクを外すタイミングに大きな違いはみられません。

インフルエンザに対する不安感別にみると、「家の中に入る時」外すという人は、「不安を感じている」(25.1%)の方が「不安を感じていない」(10.4%)より多くなっています。

図 17. マスクはどこで外すことが多いか <マスク利用者ベース>



性別	男性 <n=110>	46.4	29.1	7.3	7.3	8.2	1.8
	女性 <n=133>	42.1	33.8	8.3	7.5	3.8	4.5
年齢	20代 <n=41>	48.8	26.8	4.9	9.8	4.9	4.9
	30代 <n=48>	41.7	31.3	8.3	8.3	2.1	8.3
	40代 <n=50>	48.0	34.0	4.0	8.0	4.0	2.0
	50代 <n=52>	30.8	42.3	15.4	1.9	7.7	1.9
	60代 <n=52>	51.9	23.1	5.8	9.6	9.6	-
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=206>	45.6	30.1	6.8	8.7	5.3	3.4
	不安を感じていない <n=37>	35.1	40.5	13.5	-	8.1	2.7

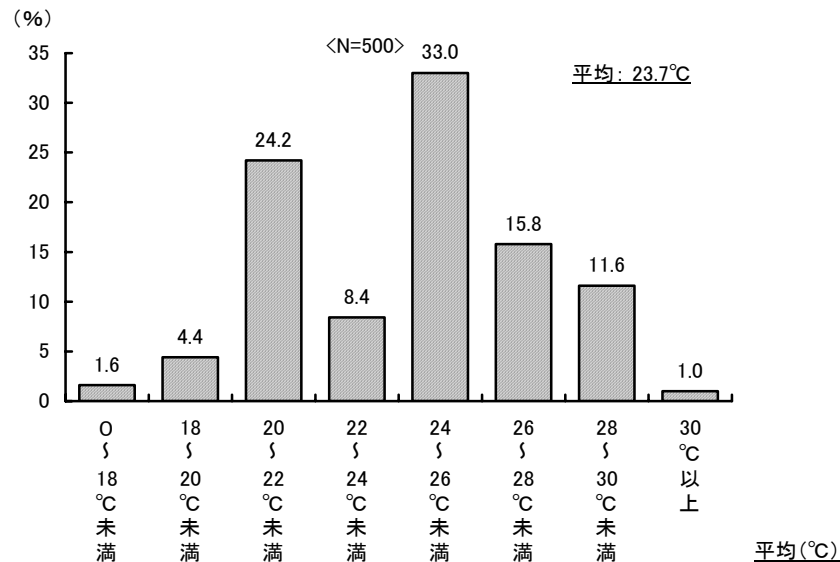
マスク利用者ベースで見ると、「家の中に入る時」(44.0%)が4割強、続く「家の玄関先で」(31.7%)が3割を占め、この2項目が突出しています。

しかし、「家の中に入る時」までマスクをつけている人は半数未満であり、家に入る前にマスクを外す人の方が、割合としては高くなっています。

8. インフルエンザウイルスの活動を抑えるために適切な室内環境

- ◆適切だと思う温度は「24～26℃未満」(33.0%)が最も多い。そのほか「20～22℃未満」(24.2%)、「26～28℃未満」(15.8%)など 20℃台が多く、平均は「23.7℃」
- ◆適切だと思う湿度は「60～70%未満」(35.4%)が最も多く、「50～60%未満」(30.2%)が続く。平均は「53.7%」
- ◆正解(温度 20℃以上、湿度 40%以上)した人は8割強(83.6%)

図 18. 温度は何度以上に保つのがよいと思うか



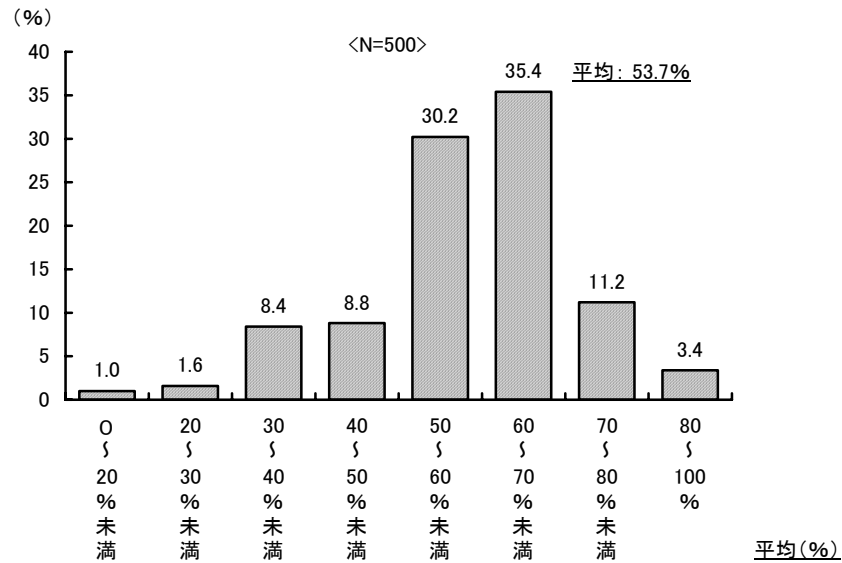
性別	温度範囲 (°C)								平均 (°C)	
	0℃未満	18℃未満	20℃未満	22℃未満	24℃未満	26℃未満	28℃未満	30℃以上		
男性 <n=250>	2.4	4.0	25.2	11.6	32.8	13.2	9.2	1.6	23.4	
女性 <n=250>	0.8	4.8	23.2	5.2	33.2	18.4	14.0	0.4	24.0	
年齢	20代 <n=100>	-	-	16.0	10.0	40.0	19.0	13.0	2.0	24.7
	30代 <n=100>	3.0	4.0	26.0	5.0	34.0	13.0	14.0	1.0	23.7
	40代 <n=100>	2.0	8.0	29.0	4.0	31.0	15.0	11.0	-	23.2
	50代 <n=100>	1.0	5.0	21.0	14.0	32.0	18.0	8.0	1.0	23.6
	60代 <n=100>	2.0	5.0	29.0	9.0	28.0	14.0	12.0	1.0	23.4

次に、インフルエンザウイルスの活動を抑えるためには、温度、湿度はそれぞれどの程度に保つのがよいと思うかを答えてもらいました。

温度は「24～26℃未満」(33.0%)が最も多く、次いで「20～22℃未満」(24.2%)、「26～28℃未満」(15.8%)などが続き、9割以上(93.0%)が20℃台と答えています。平均は「23.7℃」です。

性、年代別では特に差はみられません。

図 19. 湿度は何%以上に保つのがよいと思うか



性別	湿度範囲 (%)									平均 (%)
	0%未満	20%未満	30%未満	40%未満	50%未満	60%未満	70%未満	80%以上		
男性 <n=250>	1.2	0.8	5.6	8.4	27.6	39.2	12.4	4.8		55.6
女性 <n=250>	0.8	2.4	11.2	9.2	32.8	31.6	10.0	2.0		51.9
年齢	20代 <n=100>	2.0	4.0	12.0	13.0	25.0	27.0	10.0	7.0	51.2
	30代 <n=100>	2.0	1.0	11.0	8.0	32.0	32.0	9.0	5.0	52.9
	40代 <n=100>	1.0	3.0	5.0	10.0	38.0	29.0	11.0	3.0	53.1
	50代 <n=100>	-	-	6.0	10.0	27.0	44.0	12.0	1.0	55.4
	60代 <n=100>	-	-	8.0	3.0	29.0	45.0	14.0	1.0	56.2

湿度についてみると、「60～70%未満」(35.4%)、「50～60%未満」(30.2%)が多く、約3分の2(65.6%)が「50～70%」を適当な湿度と答えています。平均は「53.7%」です。

性別に平均をみると、《男性》(55.6%)の方が《女性》(51.9%)よりやや高くなっています。

年代別にみると、上の年代の方が適切と考える湿度の平均が高くなっています。

インフルエンザに対する不安感別にみると、《不安を感じている》(54.1%)の方がわずかに《不安を感じていない》(52.6%)より平均値が高くなっています。

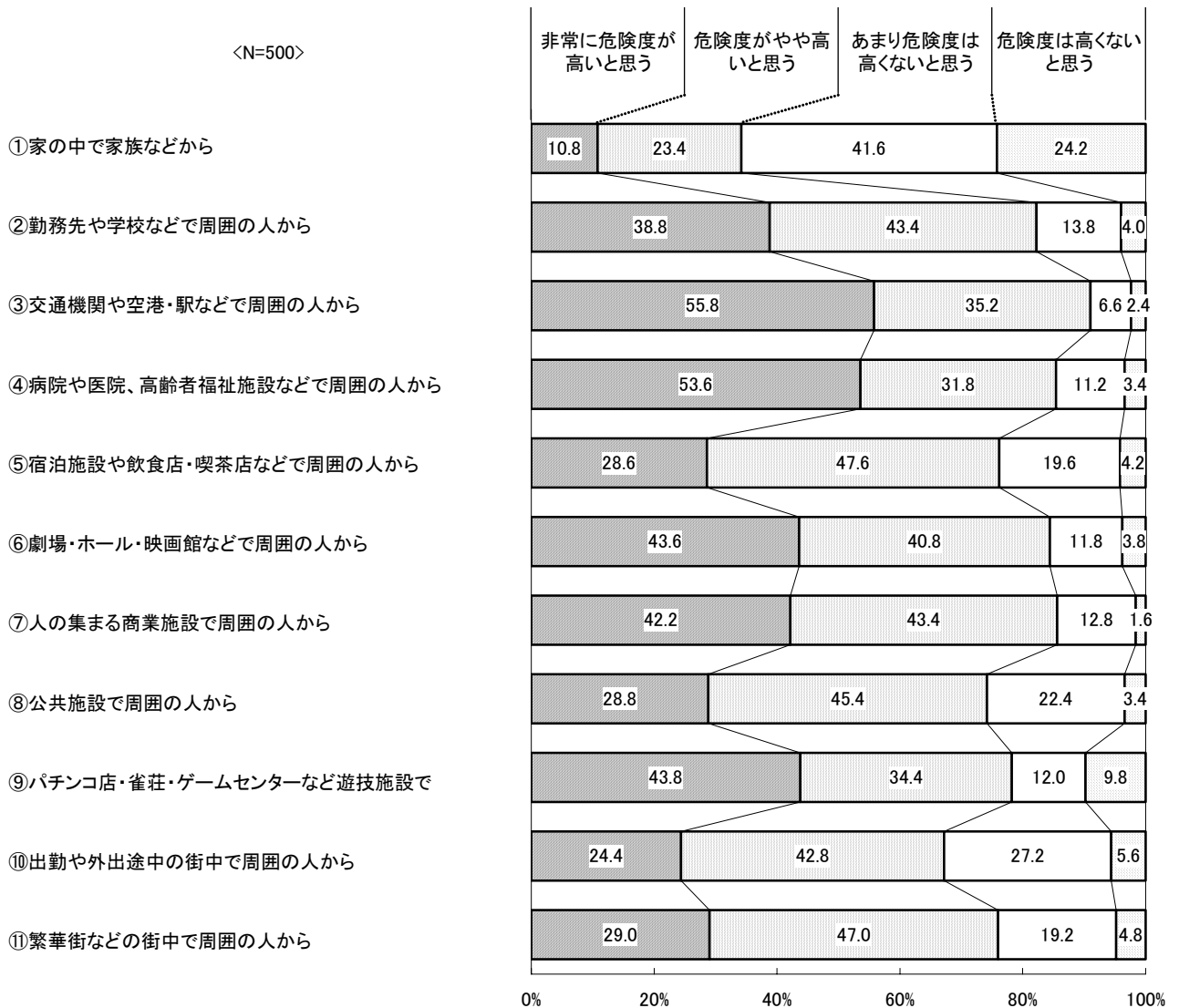
ちなみに、「温度 20℃以上」「湿度 40%以上」がインフルエンザウイルスの活動を抑えるために適切な環境ですが、正解者は8割強(83.6%)に達しています。先にみた設問では、部屋の空気のコントロールに気を配っている人は少数派でしたが、「低温・乾燥」がよくないという認識はかなり浸透しているようです。

9. インフルエンザに感染する危険度が高いと思う場所

「非常に危険度が高いと思う」のは、「交通機関や空港・駅などで周囲の人から」(55.8%)、「病院や医院、高齢者福祉施設などで周囲の人から」(53.6%)。一方、「家の中で家族などから」を危険度が“高いと思う(非常に+やや)”人は3割程度(34.2%)

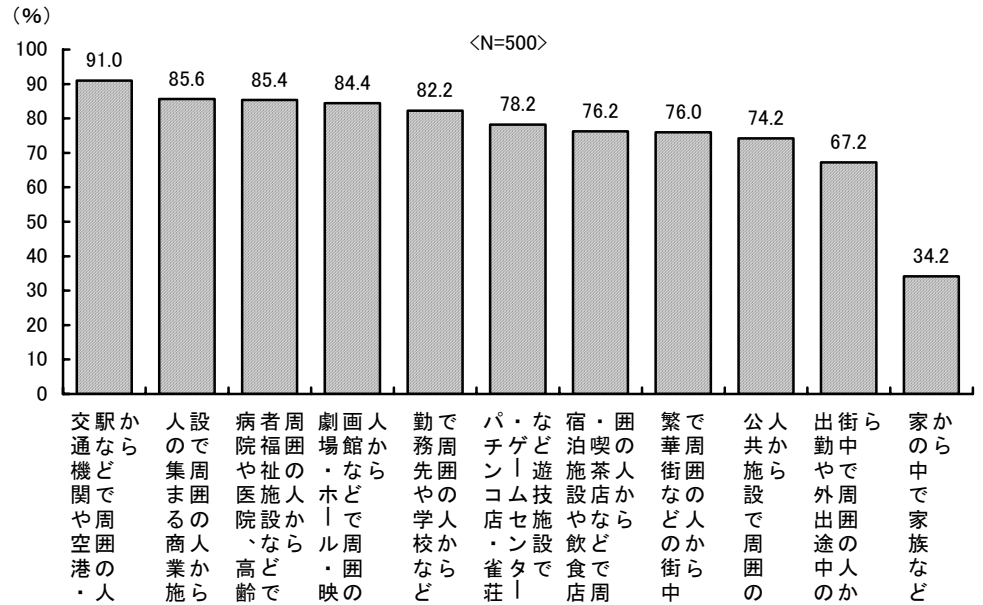
-----《女性》は「家の中で家族などから」(42.4%)も警戒する人が多い

図 20. インフルエンザに感染する危険度が高いと思う場所



インフルエンザに感染する危険度が“高いと思う(非常に+やや)”の割合をみると、「交通機関や空港・駅などで周囲の人から」(91.0%)が最も多く、以下、「人の集まる商業施設で周囲の人から」(85.6%)、「病院や医院、高齢者福祉施設などで周囲の人から」(85.4%)、「劇場・ホール・映画館などで周囲の人から」(84.4%)、「勤務先や学校などで周囲の人から」(82.2%)などが続いています。特に、「交通機関や空港・駅などで周囲の人から」「病院や医院、高齢者福祉施設などで周囲の人から」の2項目は半数以上が「非常に危険度が高いと思う」(それぞれ55.8%、53.6%)としています。一方、「家の中で家族などから」(34.2%)は3割程度と比較的少なくなっています。ほかの家族がウイルスを持ち帰る可能性は十分にありますが、“我が家”に帰ると安心感からか警戒心が緩むのかもしれない。

図 21. インフルエンザに感染する危険度が高いと思う場所<“高いと思う（非常に+やや）”割合>【属性別】



性別	男性 <n=250>	88.4	83.6	83.2	84.0	83.2	78.8	75.6	75.2	74.4	65.6	26.0
	女性 <n=250>	93.6	87.6	87.6	84.8	81.2	77.6	76.8	76.8	74.0	68.8	42.4
年齢	20代 <n=100>	90.0	83.0	84.0	79.0	87.0	69.0	73.0	76.0	71.0	69.0	36.0
	30代 <n=100>	91.0	84.0	84.0	83.0	82.0	79.0	78.0	80.0	78.0	74.0	37.0
	40代 <n=100>	86.0	84.0	78.0	83.0	83.0	75.0	71.0	69.0	66.0	63.0	47.0
	50代 <n=100>	95.0	85.0	91.0	87.0	81.0	80.0	77.0	73.0	75.0	60.0	31.0
	60代 <n=100>	93.0	92.0	90.0	90.0	78.0	88.0	82.0	82.0	81.0	70.0	20.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	93.3	88.8	88.8	87.7	87.5	80.8	80.8	80.0	77.6	70.9	38.7
	不安を感じていない <n=125>	84.0	76.0	75.2	74.4	66.4	70.4	62.4	64.0	64.0	56.0	20.8

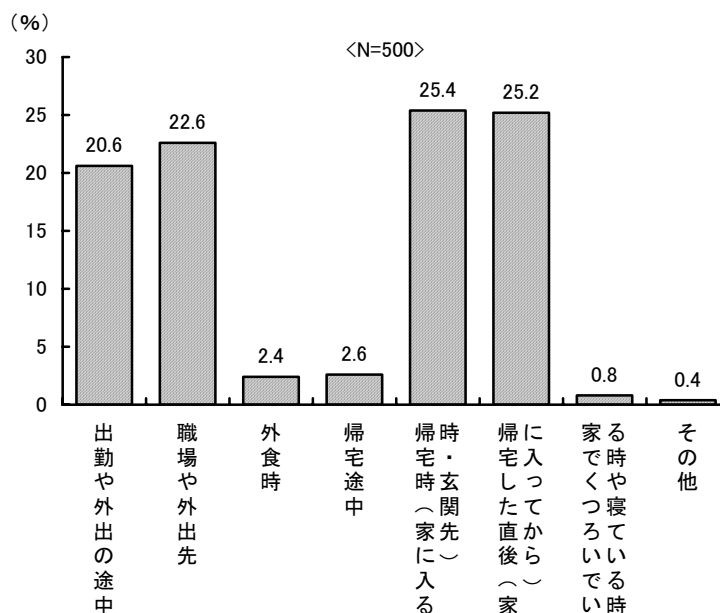
性別に危険度が「高いと思う」の割合をみると、「家の中で家族などから」は《女性》(42.4%)の方が《男性》(26.0%)より明らかに高く、《女性》は家庭内でも用心を怠らない人が多いと言えます。夫や子どもなどが外でウイルスを持ち帰ってくることを警戒している人が多いのかもしれない。

年代別にみると、「人の集まる商業施設で周囲の人から」「劇場・ホール・映画館などで周囲の人から」の2項目は、差はわずかながら上の年代の方が多くなっています。一方、「勤務先や学校などで周囲の人から」は《20代》(87.0%)で最も高くなっています。

10. インフルエンザに対する予防処置が最も必要なのは、どのタイミングだと思うか

「帰宅時(家に入る時・玄関先)」(25.4%)、「帰宅した直後(家に入ってから)」(25.2%)が並び、次いで「職場や外出先」(22.6%)、「出勤や外出の途中」(20.6%)が続く

図 22. インフルエンザに対する予防処置が最も必要なのは、どのタイミングだと思うか（複数回答）



性別	男性 <n=250>	19.2	25.6	1.6	2.8	25.2	23.6	1.6	0.4
	女性 <n=250>	22.0	19.6	3.2	2.4	25.6	26.8	-	0.4
年齢	20代 <n=100>	17.0	24.0	5.0	2.0	26.0	21.0	4.0	1.0
	30代 <n=100>	17.0	20.0	1.0	2.0	39.0	21.0	-	-
	40代 <n=100>	26.0	30.0	1.0	1.0	13.0	29.0	-	-
	50代 <n=100>	20.0	22.0	1.0	5.0	23.0	29.0	-	-
	60代 <n=100>	23.0	17.0	4.0	3.0	26.0	26.0	-	1.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	19.5	22.9	2.9	2.1	28.5	23.2	0.3	0.5
	不安を感じていない <n=125>	24.0	21.6	0.8	4.0	16.0	31.2	2.4	-

インフルエンザに対する予防処置が最も必要だと思うのは、「帰宅時（家に入る時・玄関先）」(25.4%)、「帰宅した直後（家に入ってから）」(25.2%)が並んで多く、次いで「職場や外出先」(22.6%)、「出勤や外出の途中」(20.6%)が続いています。第一に“ウイルスを家に持ち込まない”、次いで“外でウイルスをもらわない”という意識が強く働いているようです。

性別では特に差はみられません。

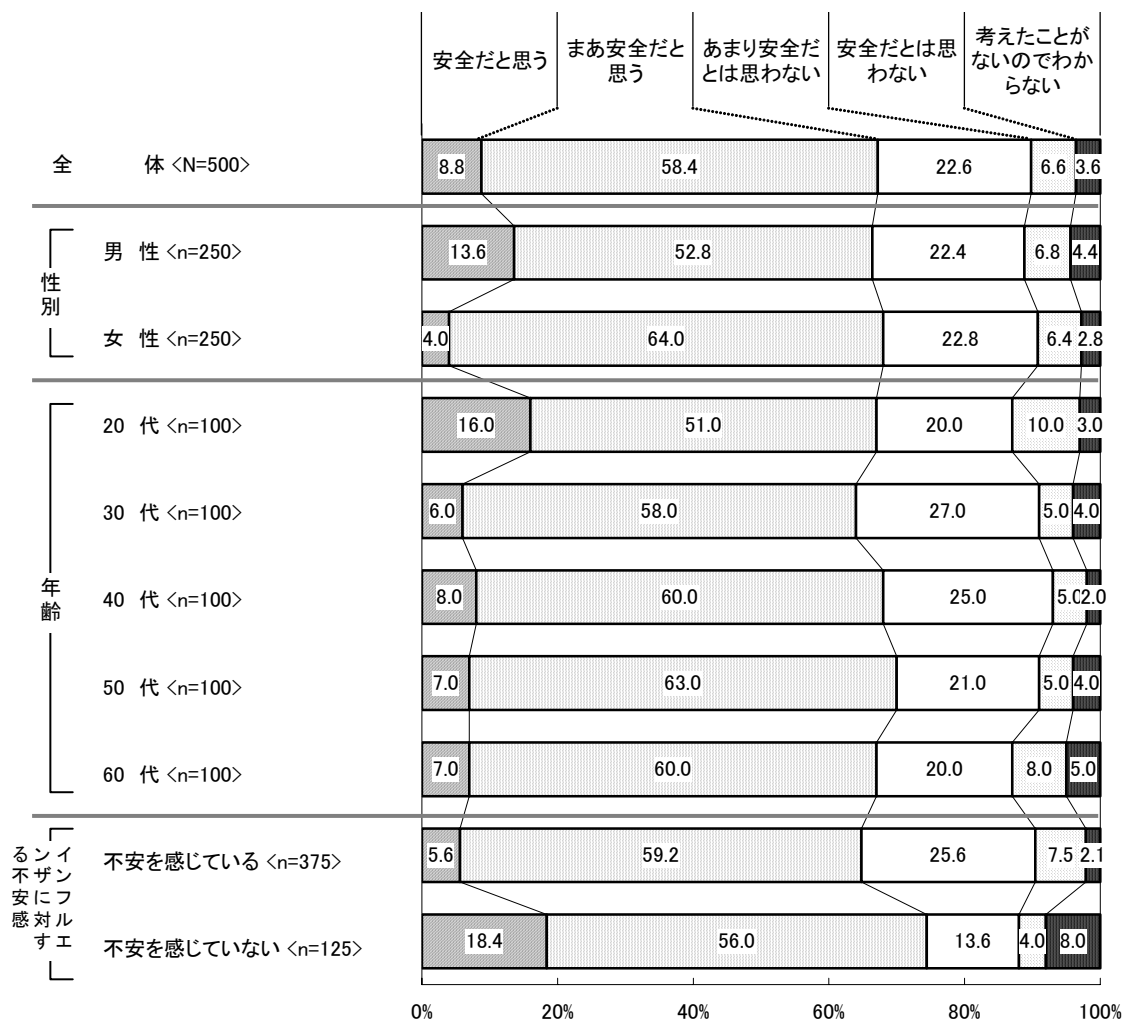
年代別にみると、「帰宅時（家に入る時・玄関先）」は《30代》(39.0%)で最も多く、「帰宅した直後（家に入ってから）」は《40代》《50代》(それぞれ29.0%)、《60代》(26.0%)など、比較的上の年代で高めになっています。

インフルエンザに対する不安感別にみると、「帰宅時（家に入る時・玄関先）」は《不安を感じている》(28.5%)の方が《不安を感じていない》(16.0%)より多くあげています。一方、「帰宅した直後（家に入ってから）」は、《不安を感じていない》(31.2%)の方が《不安を感じている》(23.2%)よりやや高率になっています。

11. インフルエンザの流行時でも、自宅の中の空気は安全だと思うか

“安全だと思う”(67.2%)が3分の2を占め、家庭内で感染するリスクを感じている人は比較的少ない

図 23. インフルエンザの流行時でも、自宅の中の空気は安全だと思うか



次に自宅の中の空気について、家族がインフルエンザにかかっていない限り安全だと思うかを聞いたところ、“安全だと思う”(67.2%)という人が多く、“安全だとは思わない”(29.2%)は3割程度となっています。

性別にみると、“安全だと思う(安全だと思う+まあ)”の割合はほとんど差がありませんが、「安全だと思う」に限定してみると、《男性》(13.6%)の方が《女性》(4.0%)より高めになっています。

年代別に「安全だと思う」の割合をみると、《20代》(16.0%)だけ高めになっています。

インフルエンザに対する不安感別にみると、“安全だと思う”の割合は、《不安を感じていない》(74.4%)の方が《不安を感じている》(64.8%)より約10ポイント高くなっています。

12. 「空気清浄機」を使用しているか

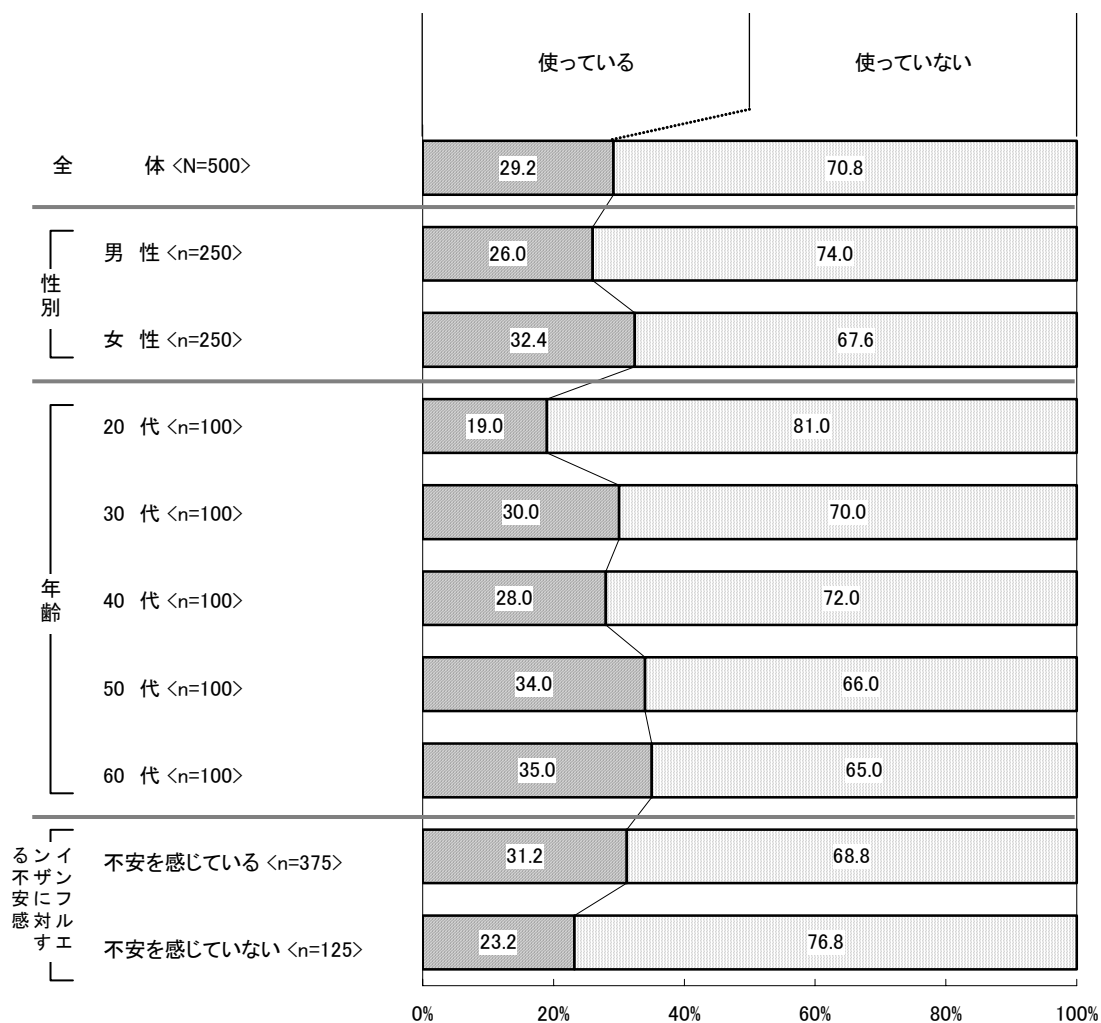
◆「使っている」人は3割(29.2%)

◆購入した時期は「3～4年前」(30.8%)、「5～9年前」(29.5%)が多い

◆使用している空気清浄機が持つ機能は「脱臭機能(ニオイの除去)」(69.2%)がトップ。「インフルエンザ等のウイルスの除菌・除去機能」は約4割(37.7%)

◆一番の購入理由は「花粉の除去」(22.6%)、「ハウスダストやダニの除去」(17.1%)などアレルギー対策が多い。次いで「タバコの煙や臭いの除去」(16.4%)、「部屋の臭いの除去」(10.3%)などのニオイ対策が続く

図 24. 「空気清浄機」を使用しているか



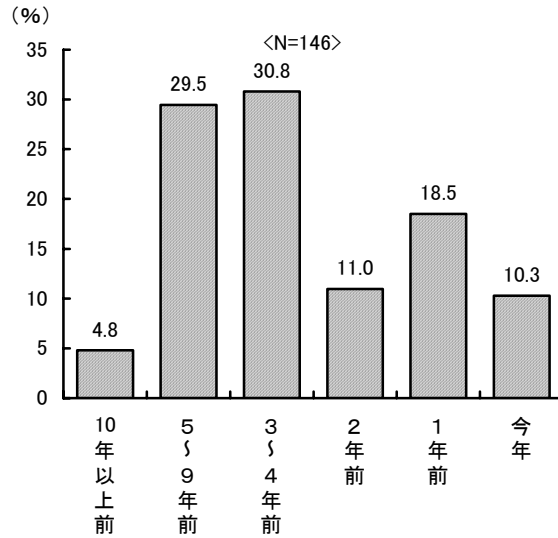
空気清浄機の使用状況を見ると、「使っている」は3割(29.2%)で、「使っていない」(70.8%)が多数を占めています。

性別にみると、使用者は《女性》(32.4%)の方が《男性》(26.0%)より若干多くなっています。

年代別にみると、年代が上がるにつれ、使用者の割合が高くなっています。

インフルエンザに対する不安感別にみると、《不安を感じている》(31.2%)の方が《不安を感じていない》(23.2%)よりやや多くなっています。

図 25. 「空気清浄機」の購入時期（複数回答）

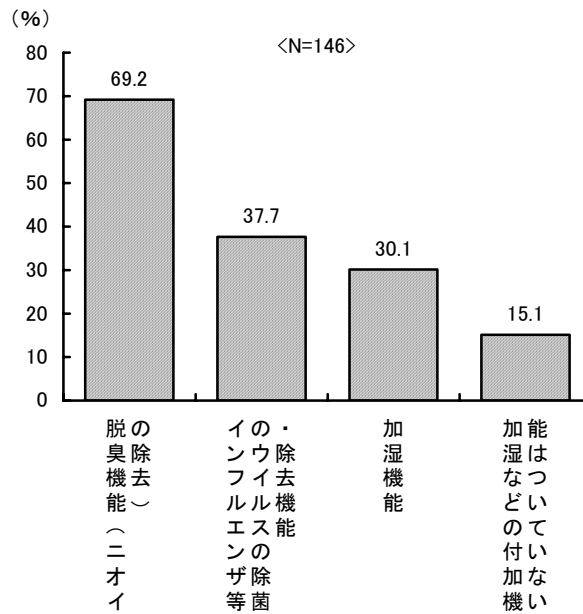


性別	男性 <n=65>	4.6	23.1	35.4	10.8	20.0	12.3
	女性 <n=81>	4.9	34.6	27.2	11.1	17.3	8.6

空気清浄機を使っている人に購入した時期を聞いたところ、「3～4年前」（30.8%）、「5～9年前」（29.5%）という人が多くなっています。しかし、「1年前」（18.5%）、「2年前」（11.0%）、「今年」（10.3%）など、最近購入した人も少なくありません。

性別にみると、《女性》では「5～9年前」（34.6%）が比較的多いのにに対し、《男性》では「3～4年前」（35.4%）など、より最近に購入した人が多いようです。

図 26. 使用している「空気清浄機」の機能（複数回答）

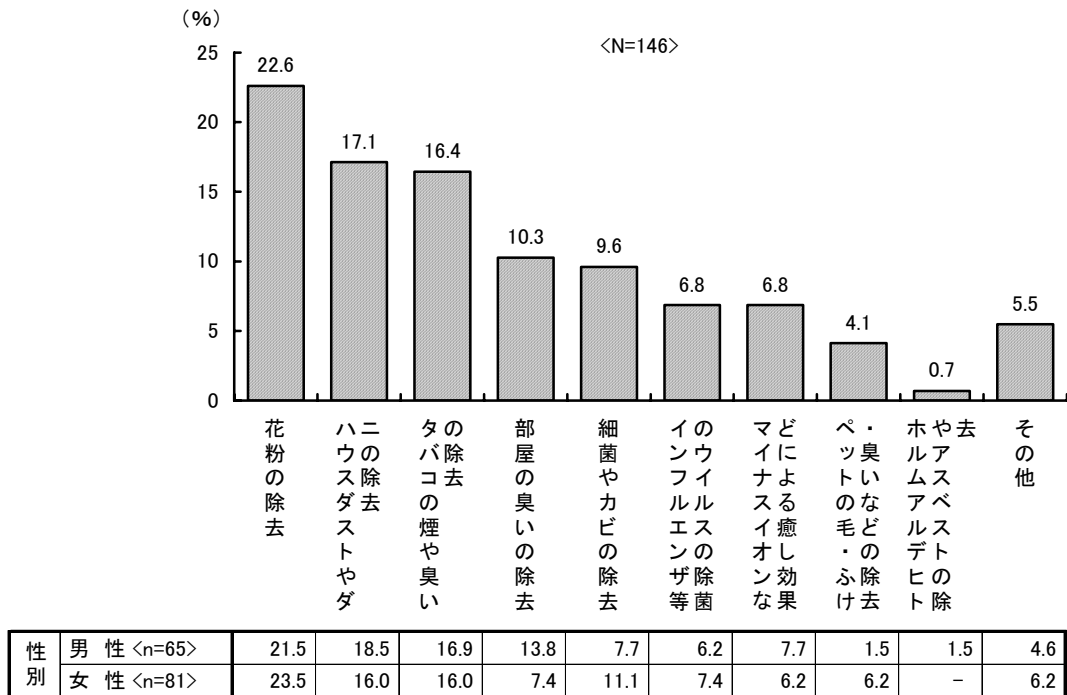


性別	男性 <n=65>	63.1	35.4	33.8	20.0
	女性 <n=81>	74.1	39.5	27.2	11.1

使用している空気清浄機の機能については、「脱臭機能（ニオイの除去）」（69.2%）が最も多く、次いで「インフルエンザ等のウイルスの除菌・除去機能」（37.7%）、「加湿機能」（30.1%）の順となっています。

性別にみると、「脱臭機能（ニオイの除去）」は、《女性》（74.1%）の方が《男性》（63.1%）よりやや利用者が多くなっています。

図 27. 「空気清浄機」を購入した最も大きな理由



空気清浄機を購入した最も大きな理由を聞いたところ、「花粉の除去」(22.6%)がトップで「ハウスダストやダニの除去」(17.1%)が続き、花粉症、アレルギー対策で購入した人が多いようです。次いで「タバコの煙や臭いの除去」(16.4%)、「部屋の臭いの除去」(10.3%)などのニオイ対策が続き、「細菌やカビの除去」(9.6%)、「インフルエンザ等のウイルスの除菌」(6.8%)といった細菌・ウイルス除去を目的に購入した人は1割未満となっています。

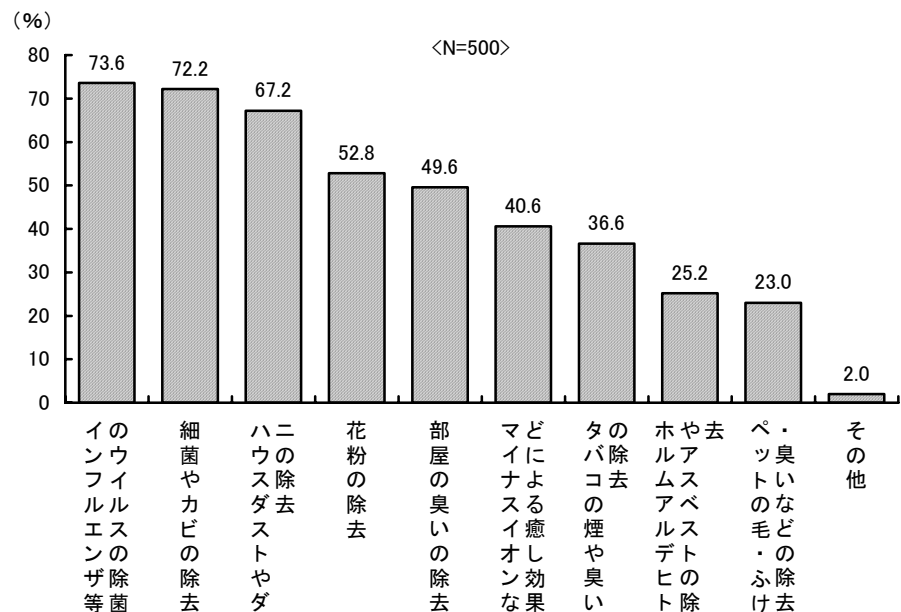
性別では目立った差はみられません。

13. 「空気清浄機」に期待する機能や効果

「インフルエンザ等のウイルスの除菌」(73.6%)、「細菌やカビの除去」(72.2%)が上位を占め、細菌・ウイルス除去への関心が高まっている。以下、「ハウスダストやダニの除去」(67.2%)、「花粉の除去」(52.8%)、「部屋の臭いの除去」(49.6%)など

-----若い世代ではニオイ対策を重視する傾向が強い

図 28. 「空気清浄機」に期待する機能や効果（複数回答）



性別	男性 <n=250>	71.2	68.8	64.4	51.6	45.2	36.4	34.8	23.2	19.6	2.4
	女性 <n=250>	76.0	75.6	70.0	54.0	54.0	44.8	38.4	38.4	27.2	26.4
年齢	20代 <n=100>	68.0	67.0	66.0	51.0	60.0	39.0	45.0	26.0	28.0	2.0
	30代 <n=100>	85.0	82.0	77.0	56.0	57.0	46.0	38.0	31.0	30.0	2.0
	40代 <n=100>	68.0	75.0	60.0	56.0	39.0	36.0	38.0	23.0	16.0	2.0
	50代 <n=100>	70.0	64.0	67.0	55.0	48.0	39.0	34.0	26.0	23.0	2.0
	60代 <n=100>	77.0	73.0	66.0	46.0	44.0	43.0	28.0	20.0	18.0	2.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	78.1	74.1	68.8	54.9	48.5	40.0	33.9	25.1	21.3	1.9
	不安を感じていない <n=125>	60.0	66.4	62.4	46.4	52.8	42.4	44.8	25.6	28.0	2.4

今後、「空気清浄機」を購入するとしたら、どのような機能や効果を期待するかを聞いたところ、「インフルエンザ等のウイルスの除菌」(73.6%)、「細菌やカビの除去」(72.2%)がトップ1、2となっています。空気清浄機の購入理由としては比較的下位にあげられていましたが、細菌・ウイルス除去に対する関心は高まっているようです。次いで「ハウスダストやダニの除去」(67.2%)、「花粉の除去」(52.8%)、「部屋の臭いの除去」(49.6%)、「タバコの煙や臭いの除去」(36.6%)など、アレルギー、ニオイ対策への期待が続いています。また、「マイナスイオンなどによる癒し効果」(40.6%)をあげる人も少なくありません。

性別にみると、全体に《女性》の方が高率であり、さまざまな機能、効果に期待しているようです。

年代別にみると、細菌・ウイルス除去への期待が最も高い点は変わりませんが、「部屋の臭いの除去」が《20代》(60.0%)、《30代》(57.0%)では多くあげられています。また、「タバコの煙や臭いの除去」も若い人ほど多くあげており、若年層ではニオイ除去機能を重視する傾向が強いようです。